

PV-Net News第7号 2005年6月3日発行 ■発行人：都筑 建 ■編集人：小林 光 ■発行所：太陽光発電所ネットワーク 〒101-0061千代田区三崎町SSビル6階  
■記事・広告等のお問い合わせ E-Mail: info@greenenergy.jp TEL: 03-3221-3370 ※記事および写真等の無断転載は固くお断わりいたします。  
■インターネットでも情報をご覧いただけます。www.greenenergy.jp ■印刷：(有)プロート ■レイアウト：八木澤晴子 ■編集協力：(株)NOBOX  
※太陽光発電のことを英語でPhotovoltaic power generationといい、略して「PV」と呼ばれています。  
太陽光発電所ネットワークの英文名称PV Owner Network, Japanを省略して、この会の名称を「PV-Net」としています。

## CONTENTS もくじ

### 1 ニューストピックス

第3回総会が開催されます  
「PV-Green」が認定されました  
「愛・地球博」へ、太陽光発電所ネットワークが出展!

### 2 PV-Net最前線

ワンダフル・サードエイジ  
2005受賞!  
CCEnergyの訪問を受ける!

### 3 太陽光発電所ネットワークの ロゴマーク使用規定

### 4 いよいよスタート! 太陽光 発電自家消費電力の環境価値 グリーン電力証書取引「PV- Green」参加募集開始!

### 5 会員拡大、宮崎で一挙に22名!

### 6 特集 自治体との連携に向けて

### 8 PV-Netレポート

No.1 速報! 愛・地球博より

### 10 No.2 PV-Netへの問い合わせと その対応

### 12 各地の発電量データと太陽光発電所 マップ

### 14 連載1 トラブル改善の取り組み⑥

### 15 連載2 太陽光発電がよくわかる とっておきの話 第4回

### 16 会員の広場

### 18 イベント情報 第3回総会開催のお知らせ

### 19 活動報告 地域の動き

### 22 理事会&委員会報告

### 24 事務局からのお知らせ 事務局日誌

## COLUMN コラム

### 3 PV-Net川柳 第五回

### 5 PV-Green証書の初めての買い手 ap bankとは?

### 9 ボイス・オブ・プランナー

### 11 メーリングリストの情報交換より

## NEWS TOPICS

### 第3回総会が開催されます

来たる6月25日(土)13:00~17:00(予定)に、PV-Net2005年度総会が開催されます。場所は、千代田区神田駿河台の明治大学リバティタワー3階です。会場の詳細、行き方などについては本誌P.18のイベント情報で確認ください。

総会では、昨年度の活動報告、今年度の活動方針、気になる予算案などのほか、太陽光発電にまつわる有意義な講演も予定されています。前出のイベント情報ページにプログラム概要が記載されていますが、同封の議案書で詳しい内容をご確認のうえ、奮ってご出席ください。やむをえず欠席の方は、委任状の提出をよろしくお願い致します。

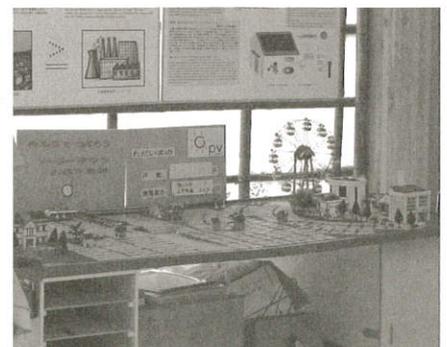
### 「PV-Green」が認定されました

太陽光発電所ネットワークが提案した自家消費電力分の環境価値グリーン電力証書取引(PV-Green)のための発電設備が、グリーン電力認証機構委員会で、グリーンな設備として認定されました。正会員のみなさまにはすでにはがきで参加募集の案内が送付されていますが、本誌P.4掲載の記事でさらに詳細をご確認いただき、PV-Greenへの参加をご希望の方は、事務局から資料を取り寄せて手続きを行ってください。

### 「愛・地球博」へ、太陽光発電所ネットワークが出展!

我がPV-Netは、5月1日から31日まで愛知万博の“遊びと参加ゾーン”「地球市民村」ユニット「光と水のエネルギー広場」に参加しました。前号で呼びかけをしておいたので、展示ブースに足をお運びくださった会員の方も多数おいでのことと思われませんが、本誌P.9掲載の「ボイス・オブ・プランナー」では、「みんなでつくるソーラータウン」、「太陽光発電でドン」、「光を集めて走らせよう!ミニ・ソーラーカーレース」を提案・企画され、実行に携わった方々の生の声が紹介されています。

会報原稿締切を遅らせて対応したホットな「速報! 愛・地球博より」(本誌P.8)もお楽しみに。



ソーラータウンができました! 何軒の家が建つかな?

## ワンダフル・サードエイジ2005受賞!

会員の番場さん（東京都国分寺在住）が、アクティブ・エイジング・キャンペーンという団体が開催するイベント「第9回サードエイジ（※1）・フォーラム」で、60歳以上の方々が生き生きと活動している団体や個人を表彰する企画「ワンダフル・サードエイジ」があるので応募してはどうかと連絡をくださいました。PV-Netはサードエイジ世代が多く活躍するため、もってこいの企画です。番場さん



トロフィーを受け取る藤井副代表理事

が推薦人になってくれることもあり、ワンダフル・サードエイジに応募しました。

そして、4月11日（木）に開催された選考委員会で、選考基準（※2）に基づき太陽光発電所ネットワークが見事ワンダフル・サードエイジ2005に選出（応募団体41団体/受賞11団体）！ 5月3日（火・祝）に東京国際フォーラムで行われた「第9回サードエイジ・フォーラム」での表彰セレモニーには、藤井副代表理事と関沢理事の2名が出席し、約5000名の参加者の見守るなか、藤井副代表理事がトロフィーを受け取りました。

今回の受賞は、PV-Netの活動に一定の社会的評価が得られた証と言えるでしょう。これは、これまでいろいろな活動に参加、協力されたボランティアのみなさんのお

かげです。

また、「サードエイジ・フォーラム」に参加していた会員の方から、「大変うれしく、誇りに思った」との声も届いています。これからも社会に貢献し続けることによって、会員のみなさんに誇りを持ってもらえる会を目指します。

※1 サードエイジ：高齢者に敬意を込めて中立的に呼ぶことばで、年齢にとらわれずアクティブに日々をエンジョイして人生の黄金期を過ごす人々に対する尊称。

※2 団体部門の選考基準

- 1 活動期間（継続性）
- 2 活動の幅（活動数）
- 3 組織の規模（社会への影響力）
- 4 エンジョイ度
- 5 インパクト・共感度  
（周りへのポジティブな影響力）
- 6 活動テーマのバランス  
（文化・社会貢献・スポーツ等）

## CCEnergyの訪問を受ける!

5月10日に米国Cooperative Community Energy（コミュニティエネルギー協同組合、以下CCEnergy）の代表Daniel Pellegriniさんと吉田彰文さんがPV-Net事務局を訪問しました！

CCEnergyは米国カリフォルニアにあるNPOで、PVや温水器、小型風車などを設置し、普及しています。今回、愛知万博「地球市民村」ユニット「光と水のエネルギー広場」における海外パートナー団体として来日し、愛知万博後に東京に立ち寄せられたというわけです。

おふたりは前日にPV-Netの紹介で群馬県太田市のソーラータウン

城西の杜を訪問しました。この日は茨城県つくば市にある（独）産業技術総合研究所（産総研）を訪問の予定で、その途中にPV-Netに立ち寄せられたわけです。これはPV-Netが米国調査の際にCCEnergyを訪問したことを受けて、ということもあるでしょう。都筑事務局長と事務局スタッフ3名でお迎えし、わずかな時間ですが歓談を楽しみました。

おふたりは日本の自然エネルギーの普及に興味津々で、ソーラータウンには大いに興奮されたとのこと。PV-Net事務局で過ごされたあと、産総研に移動されまし



左：Daniel Pellegrini氏  
右：吉田彰文氏

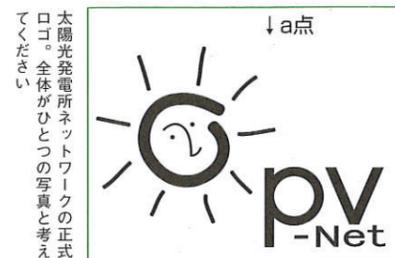
たが、産総研では基礎講座やケロルッチでみなさんにおなじみの大谷謙仁さんの案内で最先端のソーラー発電施設を見学され、大変満足されたとのことでした。

愛知万博をきっかけに海外団体とのつながりができました。今後も積極的に交流を行っていきたいと思います。

（事務局）

## 太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)のロゴマーク使用規定

当会では2004年にロゴマークを募集していました。12月18日に東京大学・弥生講堂で行われた「全国太陽光発電所オーナー大集合イベント」で、坂絃一郎さん（東京都）の作品が選定されました。この作品を若干修正した上で、太陽光発電所ネットワークの正式ロゴマークとして決定しました（商標登録出願中）。



太陽光発電所ネットワークの正式ロゴ。全体がひとつの写真と考えてください。

各地域交流会などでも、いろいろなおところで大いにご使用ください。ご使用に当たっては、この使用規定を遵守くださるようお願いいたします。

■「お日様」のマークと「PV-Net」の文字は、四角で囲まれたひとつの図形です。

■それぞれの位置の変更は禁止します。

■四角の中には文字その他、一切記入しないでください。

■例外として、スペースが足りない場合は、「お日様」マークを囲む四角形の右側（a点）から「V」の文字の右上を結んだ線の外側（右上）の部分までは、ほかの文

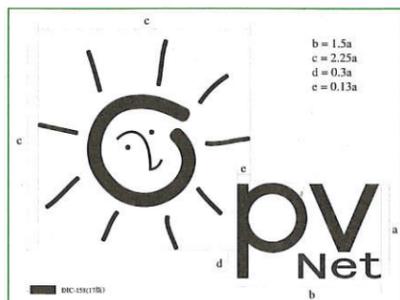
字などが入り込んでも問題ありません。

■「お日様」マークの色は、DIC-158（17版）です。

■全体を黒など、単色で表現することも可能です。

■ディメンションは下図の通りです。

（普及広報委員会副委員長 古川 元）



## PV-Net川柳第五回

細々と続いているPV・Net川柳だが、何事も継続が大切で、今号で五回目を迎えられることは、誠に慶賀の至りである。本欄担当としては、汗顔の至りであるが……。先ず、寄せられた名句を「披露」しよう。

①晴天に発電所長有頂天  
（埼玉・hansam）

②一ヶ月長久手短い愛知博（PV・Netブース）  
（東京・古川 元）

③パネルにはサクラ吹雪もうとましい  
（埼玉・的場1号発電所）

④西かぜでパネルを避ける鯉のぼり  
（埼玉・的場1号発電所）

⑤夜核も色鮮やかに太陽光埼玉・XYZ  
（埼玉・的場1号発電所）

最初の句は、今年1〜4月の日照時間は、過去30年の気象データと比較すると、1・11・0・93、1・10、1・25で、増えている。発電所長が有頂天になるのはもったいである。あとは自分の家だけが空梅雨であれば、言う事なし。PV・Net仲間の気持ちを示す。

②句目は、3月25日から185日間にわたって開催される「愛・地球博」で、我がPV・Netは5月に長久手会場「地球市民村」で出展参加した。長くて短い一カ月だったが、環境は一月ではなく永久のものである。

③④句は、俳句と見まごうものである。サクラは春、鯉のぼりは夏、西かぜは春の季語である。川柳は季語の制約がないので、季重なりを気にすることは少ない。埼玉は4月11〜13日の三日連続の雨で、パネルの上に散った桜の花びらの疎ましいことは理解できる。

⑤句目は、説明が必要なので名句ではないといえよう。最近の公園の照明は充電式の太陽光発電が多い。そして、光源は流行のLED（発光ダイオード）で、桜花が一段と冴える。私はよく理解できる。

「蛇足」川柳は、世相を見つめ人間の感情のすべてを十七音字で表現する楽しい文芸である。まわりのものすべてが句材であり、自由に自分の思いを句にすることができ、始めたばかりの人でも名句ができる。現在、川柳とは人を皮肉ったり、人を笑わせるものだと思っている人はなくなり、他の短詩型文芸に比して決して遜色のない人間諷刺の詩と言えるようになった（創元社刊「川柳」その作り方・味わい方より）。

あなたのつくった川柳とPV・Net News第8号でお会いしたいものです。  
（担当：普及広報・松田廣行）

【応募方法】名前およびペンネームを明記の上、自作の作品三句以内をハガキまたはEメールなどで、事務局宛にお願います。なお、作品は返却しません。

# いよいよスタート！ 太陽光発電自家消費電力の環境価値グリーン電力証書取引 「PV-Green」参加募集開始！

3月14日、グリーン電力認証機構（※1）で行われた平成16年度第5回委員会にて、太陽光発電所ネットワークが提案した太陽光発電自家消費電力の環境価値グリーン電力証書取引（PV-Green）のための発電設備が、グリーンな設備として無事認定されました。PV-Green証書の販売先第1号も決まり、いよいよPV-Green事業が本格的に動き出します。あなたの発電所も「PV-Green」に参加しませんか？

## ◆証書の買い手第1号!!

PV-Netが発行するPV-Green証書の買い手第1号は「ap bank (P.5参照)」です。7月16～18日に静岡県掛川市内「つま恋」で開催される、ap bank主催、初の音楽野外イベント「ap bank fes'05」で使われるエネルギーの一日分が、PV-Green証書によってグリーンになるのです。グリーンなコンサート、想像しただけで楽しくなります。

## ◆「PV-Green」って？

PV-Netの会員向けに活動を開始します。ここで、簡単におさらいしましょう。

太陽光発電システムで発電された電気のうち、自家消費電力には

環境価値があります。PV-Netはこの環境価値を束ねて第三者機関であるグリーン電力認証機構の認証を受け、グリーン電力証書（PV-Green証書）として発行し、販売します。PV-Greenへの参加者は、売買された環境価値の対価を金銭的な形で受け取ります。

これまでもグリーン電力証書はありましたが、小型で地域分散型の太陽光発電の、自家消費電力の環境価値を扱う点が特徴です。

## ◆太陽光発電所（既設・新規設置）にとってのメリットは？

グリーンな電力を生む発電者であることが客観的に認められ、環境に貢献していることを広くアピールできます。さらに、証書が販売されることで、設置費用の早期回収を可能にします。

## ◆社会的にどんな意味があるの？

太陽光発電設置者が証書代金を受け取ることで、発電設備導入のための経済的負担が軽くなり、PV導入の新たなインセンティブになります。さらに、証書の売上の一部で運営する基金を通じて、教育機関などへの太陽光発電設備の導入を予定しています。NEF（新エネルギー財団）による太陽光発電設備設置補助事業が2005年度中に終了する見通しである一方で、地方自治体と協力して地域特性を活かした太陽光発電の普及のしくみを共同で創設するなど、地方環境行政への展開が期待されます。

また、企業、自治体、個人が、証書の購入を通して地域の太陽光発電所を応援

できます。現在、企業間でのみ取引可能なCO<sub>2</sub>排出権よりも、身近な環境価値の存在をアピールし、支援できることで、市民の環境意識向上につながることも期待されます。

このように、PV-Greenは、太陽光発電設置者にメリットがあるのみでなく、太陽光発電がさらに普及し、導入しやすい市民の発電設備となるために、様々な応援の声を地域密着で形にする仕組みなのです。

## ◆どんな手続きなの？

### ◎ステップI：設備認定

自宅の太陽光発電所について、グリーンな発電設備としての「設備認定」を受けます。

### ◎ステップII：発電量認証

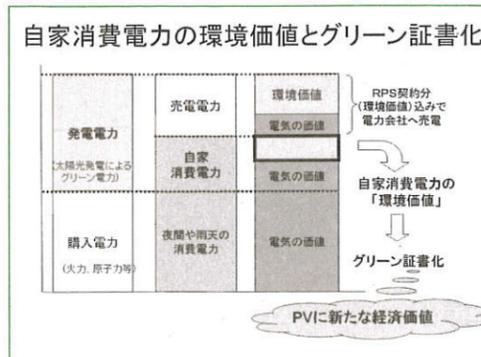
設備認定1年後に、1年分の発電量を証書化するための認証を受けます。「設備認定」、「発電量認証」はグリーン電力認証機構が行います。

この手続きのために、PV-Green参加者は発電設備のPVカルテ登録と累積発電量・販売電力量の定期的報告が必要です。

参加を希望する方は、この機会にPVカルテの入力を済ませてください（※2）。PV-Netはみなさんの発電量の妥当性をPV健康診断で確認し、認定・認証申請を代行し、グリーン電力証書の質・量の信頼性を保ちます。

3月14日には、21発電所が参加する初代ファーム（テストファーム）の発電設備がグリーンな設備として認定されました。次号では、もっとたくさんのグリーン電力証書取引の報告ができるかもしれません。

●図1 太陽光発電設置宅における電力と環境の価値



正会員のみなさんへはがきでお知らせした通り、PV-Greenへ参加するために必要な書類のとりまとめは年4回（8、11、2、5月初旬）行います。参加を希望する方は事務局まで気軽に資料をご請求

ください。お待ちしております！（事務局）  
※1 日本国内でグリーン電力を認証する現在唯一の第三者機関。事務局は（財）日本エネルギー経済研究所内。  
※2 初めてPVカルテを入力する方へ：

PV健康診断の活用には、以下の9項目が必要です。設置場所、太陽電池総容量、パワーコンディショナの定格出力、セルの種類、設置面数、設置方位、傾斜角度、設置面ごとの太陽電池容量とパネル枚数、日陰の影響

# 会員拡大、宮崎で一挙に22名！

本年4月、宮崎市で太陽光発電などのクリーンエネルギーの普及活動を進めている市民団体「ひむか・おひさま共和国」の開催したイベントにおいて、都筑事務局長がPV-Greenについての講演を行いました。

この講演をきっかけに、宮崎県から多数の会員申請があり、現在22名の方が新たに正会員となりま

した。これにより、宮崎の会員数はこれまでの1名を加えて23名になりました。この22名はPV-Greenの申請も行う予定とのことです。

PV-Green事業を会員拡大に活用しようという矢先に、幸先のいい知らせとなりました。これからはPV-Greenを広く知らせることにより、各地で会員拡大を積極的に進めていきます。（事務局）



都筑事務局長による講演の様子

# PV-Green証書の初めての買い手ap bankとは？

Q：ap bankとはなんですか？

A：坂本龍一、小林武史、櫻井和寿が中心となり発足した、自然エネルギー、省エネルギー、環境に関する様々なプロジェクトに融資する非営利団体です。

Q：どんなところに融資するの？

A：ap bankは、大きな事業体ではなく、普通に生活する人にできる「小さな事業」を対象にした融資を中心に考えています。現在、15件に融資を行っています。このほかに、必要書類待ちのところや審査を進めているものなどが4件あります。

選択の基準は、独自性、新規性、市民性、発展性の高いものを選びます。個人だけでなく、NPO、中間法人、有限会社、株式会社、生活協同組合などの形態でもかまいません。

Q：原資はなんですか？

A：ap bankの資金は音楽家からの資金のみを原資とします。「匿名組合契約」によって、ap bankと音楽家とが資金を出し合って融資するものです。

しかし、契約の表面に出てくるのはap bankになります。

Q：金利はどれくらい？

A：ap bankの金利は固定の1%ですから、1億円を1

年間融資しても金利は100万円にしかありません。

Q：どれくらい融資してくれるのでしょうか？

A：融資の上限は最大500万円程度までです。期間は最長で10年です。

Q：どうして非営利で融資ができるの？

A：ap bankは「有限責任中間法人」という仕組みを利用しています。これは簡単に言うと「公益」と「私益」の中間で、いうならば「共益」のための組織です。「公益」であればNPO法が使えるのですが、NPOは「出資金」を受けることができません。さらに「乗っ取り」の心配も出てきます。その点、中間法人であれば非営利の仕組みとして利用できますし、出資を受けることも、乗っ取りを心配する必要もなくなります。

融資を行うために、ap bankは貸金業法に登録しています（東京都知事（1）第28074号）。

初めてap bankを耳にした人が多いと思われるかもしれませんが、いかがでしょうか？ PV-Green同様にap bankにも注目していただければと思います。

（事務局）

（参考資料：ap bankホームページ<http://www.apbank.jp/index2.html>）

# 自治体との連携に向けて

PV-Netの各地域交流会は、地域フォーラムの開催やイベントへの出展など、様々な活動を行っています。これらの活動を通じて、多くの地域で自治体との連携が見られました。発足からわずか2年ですが、その数もかなりあります。6地域からの報告をまとめました。

## 栃木地域

まず、栃木地域交流会では、県との具体的な協働に向けた意見交換会の企画が実現しました。栃木県の環境局長と環境政策課長を交えた意見交換会を、5月11日（水）に開催。この会合の企画調整をいただいている世話人の矢口さんをはじめ、都筑事務局長、納富（栃木地域交流会理事）を含む世話人

数名が参加しました。

県からは温暖化防止対策に対する具体的な対応方針を含む環境政策方針をお話しいただき、PV-Netからは会の性格や活動目的を紹介。相談室、ガイドブック定期刊行、自家消費グリーン証書など、県と協働したい内容の提案を行ったのち、意見交換を行いました。

また、同時に市町村など自治体との協働も進めています。6月4

## 埼玉地域

県内の自然エネルギーをはじめとする環境行政の展開は、党派とは関係なく首長のポリシーによって著しい温度差があり、画一的展開では実行の薄いものになりがちです。その視点で各種コラボレーションを展開するためには、単にPV-Netを宣伝するためのものか、

会員を増やすミッションのためのフォーラムなのか、目的意識を明確にして臨む必要があります。

昨年度は、新エネルギー財団がPVの一般助成を縮小または打ち切る計画がある中で、05年度も市民に対し助成を続ける計画を堅持している川越市とのコラボレーションを中心に展開。会員拡大の実績も、昨年は川越市の都合もあり1

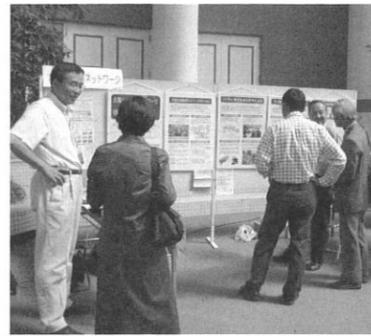
## 千葉地域

わが国のPVの普及は、今日まで主として市民の住宅への設置をベースにしてきました。その一翼を支えているのは自治体の支援です。自治体の環境問題に取り組む部局の中にPVに深い関心を持つ担当がおられると普及が進みます。市川市が好例です。こうした地域はPV-Netへの参加も期待できるはず。PV普及は地域の市民活動に根ざしているからです。

こうした考えから、昨年来千葉県自治体のホームページを歴訪し、地道な活動を進めておられる

市川市の環境政策課の杉山元明主査に狙いを定め、当会と共同で市民フォーラムの開催を持ちかけました。地元会員の元理事高木さんの協力もあって、1月末、交通の便の恵まれた市川公民館を提供いただき、「自然エネルギーフォーラム2005 in 市川」を開催、65名収容の会場が満員の盛況になりました。

趣旨に賛同いただいた環境省地球温暖化対策課、千葉県からも駆けつけてご講演をいただき、市川市の杉山主査からは市のPV普及の施策についてのご講演、市内設置者の田中順子さん、会員の南昌子さんから事例発表をいただきました。



静岡県環境月間県民大会の様子

日（土）に那須野が原ハーモニーホールで開催する県北フォーラム「那須野が原に太陽を…」では、大田原市をはじめとする周辺自治体との共催を企画。今後、調査報告書、ガイドブック、フォーラムの三本柱を駆使して各自治体とのつながりを深めつつ、PV-Net栃木地域交流会のプレゼンスを高める活動を展開していきます。

（栃木地域交流会 納富信也）

回だけの開催でしたが、15名の参加で5名の会員を獲得できました。05年度も会員獲得のための協働を、共催の形でさらに密度と回数をこなして展開する予定です。

一方、環境行政に温度差のある自治体に対しては、お互いの啓蒙を通じて地域の意識向上に資していきたいと考えています。

（埼玉地域交流会代表 樽谷 勇）

その後、これらの発表を土台にして参会者を交えた1時間半にわたる熱心な討議を持つことができました。

講演いただいた方々、お集まりいただいた市民全員でPVの環境への貢献について理解を深め、そしてみんながどのように行動に移すかを共有できたと思います。今後の市川市の動きを注目するとともに、県内の他の自治体とのさらなる連携を広げたいと思います。

今回のフォーラムの後、前述の田中順子さんはじめ10名近い方々に新規に入会いただきました。

（千葉地域交流会世話人 團 彦太郎）

## 東京地域

東京地域では現在各地区での近隣グループを立ち上げています。この近隣グループでの会員との話の中で各地域でのイベントについても話題になります。各地区でのイベントに参加することでこの会の知名度を上げることができないのではないかと意見です。

これまで、昨年行われた三鷹市での一般民家でのPV設置写真展示協力やリーフレットを置かせても

## 神奈川地域

当地域は京都議定書発効を受けて地球温暖化防止対策の推進強化に向けた動きを加速させています。

本年2月に開催された「平成16年度地域新エネルギー施策説明会」においては、地球温暖化対策推進の施策のひとつとして「新エネルギーの活用対策の推進」を掲げ、平成17年度予算も計上済みであるという説明がありました。その内訳は、①PV発電促進協議会設立、②環境価値証書化事業への協力、であり、神奈川モデルとして全国

## 静岡地域

当地域のこれまでの自治体との連携活動について報告します。

◇平成15年8月：静岡県が「しずおか新エネルギー導入協働会議」を創設。PV-Net静岡として会員登録（H15.9.10の会員総数 全国511、静岡県29）

◇11月：第2回PV-Netフォーラム静岡の「後援承認申請書」を県に提出するも時期尚早として却下。フォーラムは中日新聞静岡版に取材記事として大きく掲載（H15.12.1の会員総数 全国779、静岡県37）

◇平成16年6月：掛川市で開催の「静岡県環境月間県民大会」に出展、県主催のイベントに初めて参加。「しずおか新エネルギー推進協働セミナー」第1回開講（H16.4.20の会

らったこと、2月に日野市の協力を得て見学会を開催したこと、3月に行われた東京都のイベントに参加したことはありますが、東京地域全体との活動としては連携されていませんでした。

しかし、会員の拡大、知名度の向上という点で地域での活動は重要であるとの考えを再認識し、今後は各区市のイベントに積極的に参加したいと考えています。この活動を通して各自治体との関係を深めることで、自治体への認知度

に先駆けて、PVを中心とした新エネルギー推進策を展開していくとの力強い宣言もなされました。

このうち、①については、3月にすでに複数のパネルメーカ、設置事業者、NPO団体が参加した設立準備検討会が開催され、PV-Netも要請を受けて顔合せとフリートークに参加してきました。新年度からは、より広範な分野からのメンバー参加も予定され、本格的な普及促進に向けた情報交換や議論が行われることになっています。

また、②はまさにPV-Netの自家消費電力証書化（PV-Green）事業

員総数 全国927、静岡県57）

◇8月：愛知県田原市主催「たはらエコ・エネルギーフェスタ」に出展。掛川市環境保全課担当者からの紹介で、愛知県で初めての出展（H16.7.22の会員総数 全国953、静岡県60）

◇10月：しずおか環境・森林フェア実行委員会、静岡県主催の「第2回しずおか環境・森林フェア」に3日間出展（H16.10.20の会員総数 全国975、静岡県63）

◇11月：掛川市主催「新エネルギーフォーラム」に出展（H16.11.26の会員総数 全国1001、静岡県65）

◇12月：静岡県環境森林部長を訪問、「PV-Net静岡県への提案（案）」を説明

◇平成17年2月：掛川市で「第11回

を上げることもできると思います。

また、各自治体へのアンケート結果から、各地域でPVへの関心度にかかなりの差があることがわかりました。まずは関心度の高い自治体から連携を始められるようアクションを開始したいと思います。

具体的には実際に訪問し、アンケートのお礼を述べつつ会の存在を知っていただき、その地域でのイベントの情報を収集することから始めようと考えています。

（東京地域交流会代表 高柳良大）

を念頭に置いて計画が進められようとしています。県とPV-Netの協力関係についてはこれから詰めていく必要がありますが、県が事業をバックアップしてくれるということは、何よりも強力な推進力となることは疑いありません。

この施策の展開予定としては、17年度前半に具体策の検討を行い、後半には試行としてフィールドテストを行う予定ということで、5月中旬に初回の両者打ち合わせが行われることになっています。

（神奈川地域交流会代表 野村安子）

環境を考える市民の集い」に出展、PV健康診断のサービスで当日の入会申込7名受理（H17.2.2の会員総数 全国1088、静岡県72）

◇3月：「第11回しずおか新エネルギー推進協働セミナー」協働による新エネルギーの普及・導入促進シンポジウムに出席。天城地域「新エネルギーの郷」アクションプラン委員会主催「新エネルギー・市民フォーラム！」に出席。静岡県ホームページ「しずおか新エネルギー情報の森」に太陽光発電導入事例として掲載

◇4月：富士市環境政策課から「静岡県地球温暖化防止活動推進員」に推薦。委嘱式・研修会が県庁内で予定（H17.4.24の会員総数 全国1121、静岡県85）

（静岡地域交流会代表 山下正道）

## 速報！ 愛・地球博より

—— 万博プロジェクトリーダー 高柳良大

PV-Netが愛知万博「地球市民村」に、ユニット「光と水のエネルギー広場」として参加しました！

4月30日から5月1日にかけての動きを、万博プロジェクトリーダーの高柳良大さんがまとめてくれました。

### ■ いざ愛知万博！

いよいよ愛知万博の始まりです。4月30日の今日は、4月に展覧していた団体の撤収作業と5月から展覧する団体（わたしたち）の搬入・セッティング作業をたった1日で行う日です。夜10時から搬入を開始し、朝の8時半までにはすべての展示を完成させなくてはならないという強行軍になります。

PV-Netが参加するユニット「光と水のエネルギー広場」はパビリオン内の展示だけでなく、裏の広場に風車3本、小屋2つを設置するため、段取りよくどこよりも迅速に作業を進める必要がありますが……。

夕方の4時に名古屋入りした時点でセッティングに必要なものができていない！ 搬入開始時間に間に合うかと心配です。

なんとか時間までに出来上がりましたが、夕食もろくに取れず搬入開始となりました。搬入時の車内で「徹夜だね」なんて冗談を言いつつ、胸中ホントに徹夜になったらどうしようと不安が胸をよぎります。

### ■ 試行錯誤の架台設置

まずは「光と水」（ユニット）と



遠足で訪れた小学生。展示物に興味津々

して全体の作業の開始です。パビリオンの中では、展示関係のセッティングや液晶モニターのセッティングなどを行っています。外では風車建て、足湯小屋建て、ソーラーハウス建てなど盛りだくさんの作業です。

小屋建てはプロに任せ、私たちは太陽光パネルの架台づくりを始めました。この作業が実に大変でした。なぜなら、架台の完成形を知っている人がいないため、試行錯誤の連続です。結局、架台が完成したときは夜中の2時を過ぎていました。

### ■ 雨にも負けず

架台が出来上がった頃には土台の小屋も完成していたので、架台をクレーンで上げてもらい、パネルの設置を始めました。作業中は雨が結構降ったため、気分は最悪で、いつになったらできるのかなと思いつつ作業を黙々と続けます。

やっとの思いでソーラー小屋が完成！ 時計を見たらすでに6時を過ぎていたのでびっくり！ 初めてのPV設置体験で感動することがたくさんあり、いろいろあったけど結構楽しい作業でした。



「光と水のエネルギー広場」



「光と水のエネルギー広場」会場



「太陽光発電でドン」

### ■ 間に合ってよかった！

ようやく落ち着いたと思ったのも束の間、PV-Netの展示物の開封作業がまったくの手つかずであることに気がつきます。7時過ぎにはダンボールの搬出がされると聞き、慌てて開封作業を開始。近くにいたボランティアさんの協力で、なんとか時間までに開封はできたのですが、出し忘れがあったという失敗もしてしまいました。

その後は朝に会場入りした方々のご尽力のおかげで、人が集まる頃には準備を終えることができました。「間に合ってよかった！」

### ■ 初日を終えて

5月1日は、「みんなでつくろうソーラータウン」で28名、午後から土砂降りの雨となってしまいましたが、「光を集めて走らせよう！ミニ・ソーラーカーレース」も「太陽光発電でドン」も、人が集まり盛況でした。



来場者の手によってどんどん進む町づくり

## Voice of Planner

ボイス・オブ・プランナー ～ワークショップはこうして生まれた～

### 「みんなでつくろう ソーラータウン」編

—— 愛知万博ボランティアスタッフ 北村陽子

PV-Netの出展物のひとつ、「みんなでつくろう ソーラータウン」は、町の模型に来場者が小さな太陽光発電の家をつくって設置し、ソーラータウンをつくろうというものです。1月の末から3カ月、少ない人数で、途中、メンバーの大怪我という大変な事故が起きる中、落ち込みながらも準備を続けました。

4月に入り、主要メンバーの窮

状を知ると多くの人が作製協力に駆けつけてくれました。圧巻は、最後までつくれなかったワークショップ案内パネルをめぐる4月26日から数日間です。パネルのベニヤ板提供のメールから始まり、提示した文案のレイアウトを考えてくれる人、英訳してくれる人、訂正箇所を指摘してくれる人、A1版のプリントアウトをしてくれる人、パネルのための三脚を提供し

てくれる人……。メールが飛び交い、本当にビックリするほどのパワーで最後の用意が終わりました。

いま、それぞれの特技を出し合ってひとつの目標に向かう凄まじいまでのパワーとネットワークをわたしたちは持っている実感しています。PV-Netはすごい！

5月、万博会場ではソーラータウンがどんどん大きくなっていきます。これからも日本中に世界中に、本当のソーラータウンをどんどん広げていきましょう！

### 「太陽光発電でドン」編

—— 愛知万博プロジェクトリーダー 高柳良大

これはPV-Netが愛知万博で行っている3つのワークショップ（以下WS）のうち一番最初に頭に浮かんだ企画である。PVパネルで発電した電気と自分で発電した電気とを比較することで、太陽光がいかにすごいものかを体験できる。また、陰をつくれれば発電量が減るなどの特徴も、目で見て感じることができる。この点で自然エネルギーを体験するというこの「光と水のエネルギー広場」のコンセプトとも一致している。

ただこのWSのコンセプトはすぐ

に決まったのだが、なかなか実際にどう行おうかが決まらなかった。パネルはどうやって調達するのか、人力発電は何を使うのかが不明のままだった。パネルはシャープ（株）から1kWを借りたので、そのパワーコンディショナ表示を使い、人力発電は自転車を使おうかと考えていたが、具体的には話が進まなかった。

そこに救世主が現れた。以前に神奈川地域のイベントで手回し発電機を借りたことがあり、それを今回も借りられるというのである。

パネルに関しては東京の世話人である熊川さんが1枚モジュールを持っているのでそれを貸してくれることになった。まさに捨てる神あれば拾う神ありである。そして表示機能に関しては神奈川の世話人である田辺さんに一肌脱いでいただき、素晴らしいハードとソフトを作成していただいた。これらにより、最後はかなりみなさまに無理をしていただいたが、なんとか間に合わせる事ができた。

最後に神奈川の世話人を中心に多くの方々の協力を得ることができ、素晴らしいWSになったことに対し心からお礼を申し上げる。

### 「光を集めて走らせよう！ミニ・ソーラーカーレース（手のひらサイズのソーラーカー）」編

—— 愛知万博ボランティアスタッフ 古峰聖治

これは太陽光発電所長のネットワークがまさに繋がって生まれてきた企画と言えるかもしれません。

昨年夏、「エコタウンかながわ2004」にてソーラードールハウス（PVでファンや電球を駆動し、バッテリーとの接続で系統連系のイメージを表現）を作成、出展しました。これを端に、「小さなソーラーハウスを集めてソーラータウンにできたら楽しい」との意見から、愛知万博向けどのようなことができるかの検討が始まりました。

ハウスには本物のパネルを載せ、何かを動かしたり光らせたりできないかなど、議論、調査、実験を重ねるうち、ちょうど良い大きさのパネルとして2005年1月号の学研「科学」の付録だったマイクロ・ソーラーカーに搭載されているパネル（2cmx3cm）に注目しました。これを分解して特性実験を試みていたのですが、「こんなに完成度の高いソーラーカーは分解するのはもったいない、ならばソーラーカーレースを」との話へ繋が

りました。ここでも太陽光発電所長のネットワークが発揮されます。

PV-Netには学研様関係者会員が在籍しておりました。この方を通じ、学研様よりソーラーカーをご提供いただけることになったのです。ここまでくると話はトントン拍子に（紆余曲折しながら？）進みました。

今回の愛知万博で太陽などの光エネルギーを得て動くソーラーカーを多くの方に体感いただき、そしてボランティアへ参加する発電所長たちの手でつぎの発展へ繋がってゆくと信じております。

# PV-Netへの問い合わせとその対応

事務局

発足してからの2年間、PV-Netには会員や一般の方からいろいろな質問が寄せられました。これまでにホームページを通じて寄せられた質問の傾向について分析し、その対応についてまとめました。

## ■ 問い合わせ内容について

これまでにホームページの「お問い合わせ」より寄せられた質問は181件です（05年4月18日現在、表1参照）。

一般の方より、会員の方からの問い合わせのほうが多く、特に会員ページへのログインに必要な会員IDやパスワード、PVカルテに関連する質問が多いのが現状です。

●表1 事務局への問い合わせ内容とその件数

03年度		04年度		05年度	
内容	件数	内容	件数	内容	件数
カルテ・発電量	9	ID・パスワード	15	ID・パスワード	7
ID・パスワード	8	入会問い合わせ	10	設置相談	6
発電所マップ	5	発電量入力訂正	8	PV-Green	3
イベント申し込み	5	設置相談	8	カルテ記載事項	2
発電量が入力できない	4	発電量登録	5	リンク	2
会員申し込み内容訂正	3	カルテ	5	書籍	2
イベントについて	4	イベント申し込み	4	万博ボランティア	2
入会について	2	会費更新	4	発電量入力	1
設置相談	2	PVについて	4	名簿作成用紙	1
PV（一般的な質問）	2	書籍	3	入会申し込み	1
データ表示不備	1	リンク	2	カルテ入力	1
メールアドレス変更	1	掲示板削除	2	市町村合併対応	1
掲示板について	1	メールアドレス変更	2	新聞掲載記事	1
会費振込について	1	登録情報訂正	1	カルテ表示	1
リンク	1	ウイルスについて	1	ML	1
会員申し込み	1	ウイリスについて	2	会員ページログイン	1
リーフレット投げ込み	1	申し込み内容訂正	1	システム調査用紙	1
フォーラム申し込み	1	中古モジュール譲る	1	推定発電量	1
発電量表記について	1	モジュール清掃	1	イベント出席依頼	1
PVと環境について	1	システム移転相談	1	会の名称	1
エネルギー問題	1	HPについて	1	検診結果	1
火山灰対策	1	モジュール移転（影）	1	日本の発電産業	1
業者から提携申し込み	1	検診結果	1		
HPについて	1	パネル清掃について	1		
合計	58件	合計	84件	合計	39件

## ■ 問い合わせ対応の実例

### 【パネル清掃に関する問い合わせ

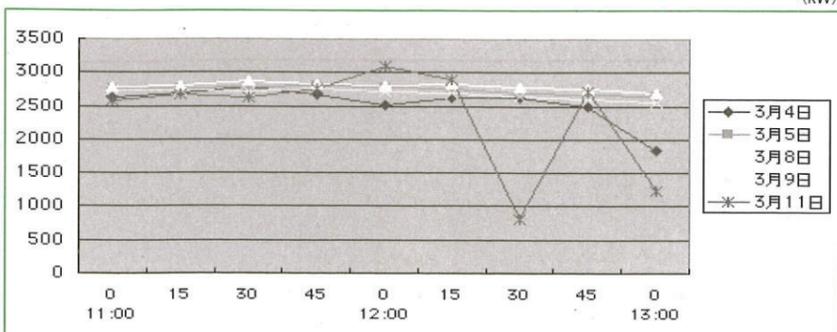
—東京会員の柳瀬さんより

セキスイの陸屋根にシャープのモジュールを設置、この晴天続きで表面に白く埃が溜まっています。

近日、屋根と外壁の塗装を予定、その前処理として塗装面を高圧水洗（32kg/cm<sup>2</sup>）します。その際、ついでにモジュール表面も水洗した場合、①表面にキズがついて発電能力が低下する？ ②どの程度の水圧が適当か？ ③今後のこともあり、屋根にモジュール水洗用の水栓を設置する必要は？ につき、情報がありましたら教えてください。

事務局からパネル清掃について詳しい樽谷さん（埼玉地域交流会代表）に対応をお願いしたところ、樽谷さんは、柳瀬さんにパネル清掃の方法と発電量の測定方法について助言しました。

●図1 水洗前の発電量



入会時のお知らせに会員IDとパスワードを記載しているのですが、紛失してしまうようです。

また、入会後に新たにパソコンを始める会員の方にとって、「ログイン」が大きな壁になっていることもうかがえます。

一般の方からの問い合わせは、PVをはじめとしたエネルギーや環境についての質問が多く、「中古モジュールを譲ります」といった提案もありましたが、当会は中古モジュール販売の仲介をしているわけではないので断りました。

入会問い合わせ以外の一般的な事項の問い合わせについては返答の作成に時間がかかるため、返事が遅れることがあります。また匿名での質問には返答していません。

会の知名度が広まるとともに、設置相談が増えてきています。質問の内容にもよりますが、一般的な意見を返すのが現状です。

### 【質問者からの報告（要約）】

#### ・モジュール面の清掃

塗装業者の使用する洗浄装置（常用圧力100kg/cm<sup>2</sup>、最低圧力80kg/cm<sup>2</sup>）を用いて行いました。モジュール面の損傷を考慮して、水圧は最低圧力の80kg/cm<sup>2</sup>とし、

モジュール表面から5～6mの距離を置いて清掃しました。

#### ・発電量の測定方法

2004年3月1日～31日のうち、日差しの良好な日の11:00～13:00の間、15分ごとに1分間における最高の発電量をモニターから読み取り記録しました。

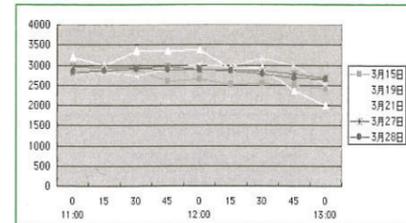


#### ・発電量測定結果と考察

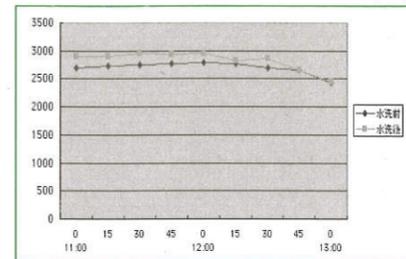
モジュール水洗前後の発電量は図1～3をご参照ください。柳瀬さんはモジュール水洗が発電量の回復に「有効のような傾向」が見られる、と控えめな評価をしています。それは太陽光発電には、天候（曇り具合）、太陽光の入射角度、気温などの影響があるからです。

簡単ですが、事務局へのお問い合わせとその対応についてまとめました。これからのいろいろな問い合わせがあると思います。興味深い事例があれば、随時会報でみなさんにお知らせしたいと思います。

●図2 水洗後の発電量 (kW)



●図3 水洗前と水洗後の平均発電量 (kW)



## 講演ダイジェスト「21世紀人類のための太陽光発電」の内容に関する質問と回答

～メーリングリストの情報交換より～

事務局

PV-Net News第6号で、12月大集合イベントでの東京農工大学教授黒川浩助氏の講演ダイジェストを掲載したところ、福岡県の進野さんよりメーリングリストに質問が寄せられました。この質問と大関崇氏（黒川浩助研究室博士後期課程2年）よりいただきました回答を掲載します。

**【質問1】**「太陽電池1m<sup>2</sup>のモジュールで66kgの炭酸ガスの削減能力がある」ことについて、この値は単位として、時間当たり、あるいは発電量当たりかを明らかにしないと比較ができないのではと思うのですが、66kgの値がよくわかりません。

**【回答】**石油火力代替と考えるとその排出源単位：730g/kWhの発生抑制ができます。また、PVが建設時のエネルギー投入を考慮すると70g/kWh発生する（LCA評価のもと：文献いろいろ）ので660g/kWh抑制となります。日本におけるPVの発電量は、1kWシステムにて1,000kWhです（平均としてよく利用します）。つまり、660g/kWh×1,000kWh=660,000g=660kg抑制したことになります。時間単位を加えると660kg/yearということになります。（参考：太陽光発電協会ホームページ）

**【質問2】**「自然林の炭酸ガス吸収量1m<sup>2</sup>当たり0.6499t程度」という記事、これも年間なのか単位が不明でよくわかりません。欧州あたりでの評価は森林1

ha当たり2～8tという記事を見ましたが、これも時間単位は不明で、森林の植種や生態が考慮されていないので曖昧であることが明らかにされていました。

0.6499というような4桁の数字があるのはどんな条件下かわかるのでしょうか？ このような単位が明らかにされないと、太陽電池は自然林の100倍の削減能力があるという記事が納得いかないのですが。

**【回答】**参考文献から、日本の「人工林」の面積当たり年間二酸化炭素吸収量は0.649kg/m<sup>2</sup>とされています。

**【森林（人工林）：0.649kg/m<sup>2</sup>/year】**

PVの効率を10%とすると、1kWシステムは10m<sup>2</sup>必要となります。1kW当たり660kg/yearでしたので、66kg/m<sup>2</sup>/yearとなります。

**【PV：66kg/m<sup>2</sup>/year】**

よって、「森林：PV 0.679：66 = 1：約100」ということになります。（参考：平成14年5月28日「第1回地球環境保全と森林に関する懇談会資料」）

※「削減炭酸ガスの評価価値は約5US\$/tというのは最近はどうなっているのか」という質問もいただきましたが、一般的な質問であることと、質問内容が若干黒川研究室の範囲外であり、責任のある専門的な回答ができないため、回答を控えさせていただきます。

# 各地の発電量データと太陽光発電所マップ

## 都道府県別発電量

北海道	10,812 kWh
岩手県	11,860 kWh
宮城県	2,765 kWh
福島県	6,262 kWh
茨城県	193,516 kWh
栃木県	190,294 kWh
群馬県	112,878 kWh
埼玉県	365,644 kWh
千葉県	365,917 kWh
東京都	474,409 kWh
神奈川県	609,751 kWh
新潟県	8,287 kWh
富山県	9,756 kWh
山梨県	206,489 kWh
長野県	2,621 kWh
静岡県	230,955 kWh
愛知県	20,860 kWh
滋賀県	5,252 kWh
京都府	11,571 kWh
大阪府	27,746 kWh
兵庫県	1,179 kWh
山口県	7,911 kWh
香川県	2,125 kWh
福岡県	15,073 kWh
合計	2,893,933 kWh

※2003年5月から2005年5月17日までの会員のみなさまの発電量です（登録された分のみ）。

上尾市	4人	志木市	1人
朝霞市	3人	草加市	4人
入間郡大井町	2人	秩父郡小鹿野町	1人
入間郡三芳町	1人	秩父郡皆野町	1人
入間郡毛呂山町	1人	秩父郡両神村	1人
大里郡大里町	1人	秩父市	4人
大里郡妻沼町	2人	鶴ヶ島市	3人
大里郡寄居町	1人	所沢市	13人
桶川市	1人	戸田市	2人
春日部市	1人	新座市	3人
加須市	3人	蓮田市	1人
上福岡市	3人	鳩ヶ谷市	1人
川口市	2人	羽生市	1人
川越市	15人	飯能市	1人
北足立郡伊奈町	2人	東松山市	2人
北足立郡吹上町	1人	比企郡小川町	1人
北葛飾郡鷺宮町	1人	比企郡玉川村	1人
北埼玉郡大利根町	1人	比企郡鳩山町	1人
北本市	1人	比企郡吉見町	1人
行田市	2人	比企郡嵐山町	1人
鴻巣市	1人	日高市	3人
越谷市	4人	深谷市	3人
児玉郡上里町	1人	富士見市	2人
児玉郡美里町	1人	本庄市	1人
さいたま市岩槻区	2人	三郷市	1人
さいたま市浦和区	5人	南埼玉郡白岡町	1人
さいたま市大宮区	2人	和光市	2人
さいたま市北区	2人	埼玉県合計	149人
さいたま市中央区	1人	(内準会員5人)	
さいたま市西区	3人		
さいたま市緑区	3人		
さいたま市南区	4人		
さいたま市見沼区	3人		
坂戸市	4人		
幸手市	1人		
狭山市	7人		

潮来市	1人
稲敷郡阿見町	1人
稲敷市	2人
牛久市	4人
笠間市	1人
鹿島郡神栖町	3人
鹿島郡大洋村	1人
鹿嶋市	5人
北茨城市	1人
北相馬郡藤代町	1人
古河市	2人
猿島郡境町	1人
猿島郡三和町	2人
猿島郡総持町	1人
下妻市	1人
筑西市	2人
つくば市	10人
土浦市	6人
取手市	1人
那珂郡東海村	2人
西茨城郡岩瀬町	2人
東茨城郡大洗町	1人
東茨城郡小川町	1人
東茨城郡城里町	2人
常陸太田市	3人
常陸大宮市	1人
日立市	5人
ひたちなか市	5人
真壁郡真壁町	1人
水海道市	2人
水戸市	8人
守谷市	4人
結城市	1人
龍ヶ崎市	3人
茨城県合計	87人
(内準会員1人)	

吾妻郡吾妻町	1人
吾妻郡嬭恋村	1人
吾妻郡中之条町	3人
安中市	2人
伊勢崎市	2人
碓氷郡松井田町	2人
邑楽郡板倉町	1人
太田市	2人
桐生市	1人
群馬郡榛名町	1人
勢多郡新里村	2人
高崎市	7人
多野郡新町	1人
多野郡吉井町	2人
利根郡月夜野町	1人
利根郡新治村	2人
富岡市	2人
沼田市	2人
藤岡市	1人
前橋市	9人
群馬県合計	45人
(内準会員1人)	

旭市	1人
我孫子市	2人
安房郡富浦町	1人
安房郡富山町	1人
安房郡丸山町	1人
夷隅郡大原町	1人
市川市	12人
市原市	11人
印西市	1人
印旛郡印旛村	1人
印旛郡栄町	1人
印旛郡本郷村	1人
浦安市	2人
海上郡海上町	1人
柏市	12人
香取郡大栄町	1人
香取郡山田町	1人
鎌ヶ谷市	4人
錦川市	1人
木更津市	1人
佐倉市	6人
佐原市	1人
山武郡大網白里町	2人
山武郡九十九里町	3人
山武郡成東町	1人
白井市	2人
袖ヶ浦市	3人
館山市	1人
千葉市福毛区	5人
千葉市中央区	3人
千葉市花見川区	4人
千葉市緑区	2人
千葉市若葉区	1人
長生郡一宮町	2人
長生郡長生村	1人
長生郡長南町	1人
長生郡長柄町	1人
富里市	1人
流山市	3人
習志野市	6人
成田市	1人
野田市	7人
船橋市	10人
松戸市	11人
茂原市	3人
八街市	2人
八千代市	7人
八日市場市	3人
四街道市	4人
千葉県合計	154人
(内準会員3人)	

足利市	4人
今市市	1人
宇都宮市	21人
大田原市	5人
小山市	6人
鹿沼市	3人
上都賀郡西方町	1人
河内郡上三川町	4人
河内郡河内町	3人
さくら市	1人
佐野市	1人
下都賀郡国分寺町	1人
下都賀郡壬生町	2人
那須郡那須町	1人
那須塩原市	3人
日光市	1人
芳賀郡益子町	2人
真岡市	3人
矢板市	1人
栃木県合計	64人
(内準会員4人)	

熱海市	2人
伊豆市	6人
伊豆の国市	1人
伊東市	5人
掛川市	12人
菊川市	2人
御殿場市	5人
静岡市葵区	1人
静岡市駿河区	1人
裾野市	4人
駿東郡小山町	1人
駿東郡清水町	1人
駿東郡長泉町	3人
田方郡函南町	2人
沼津市	17人
富士郡芝川町	1人
富士市	15人
富士宮市	4人
三島市	5人
静岡県合計	88人
(内準会員1人)	

糟屋郡志免町	1人
北九州市八幡西区	1人
前原市	1人

2005年5月17日現在の会員総数 = 1148人  
 ※賛助会員3名(3法人)含む

熱海市	2人	京都市西京区	1人
伊豆市	6人	京都市伏見区	2人
伊豆の国市	1人	相模郡山崎町	1人
伊東市	5人	(準会員)	
掛川市	12人	三田市	1人
菊川市	2人	大島郡周防大島町	1人
御殿場市	5人	山口市	1人
静岡市葵区	1人	倉敷市	1人
静岡市駿河区	1人	(準会員)	
裾野市	4人	香川県	
駿東郡小山町	1人	徳島県	
駿東郡清水町	1人	高松市	1人
駿東郡長泉町	3人	高松市	1人
田方郡函南町	2人	池田市	1人
沼津市	17人	大阪市東住吉区	1人
富士郡芝川町	1人	泉南郡岬町	1人
富士市	15人	(準会員)	
富士宮市	4人	高槻市	1人
三島市	5人	八尾市	2人
静岡県合計	88人	海部郡飛島村	1人
(内準会員1人)		春日井市	1人
		知多郡阿久比町	1人
		名古屋市昭和区	1人
		(準会員)	
		名古屋市中区	1人
		名古屋市西区	2人
		中巨摩郡玉穂町	1人
		菟嶋市	3人
		東山梨郡勝沼町	1人
		東山梨郡牧丘町	1人
		富士吉田市	3人
		南アルプス市	3人
		津久井郡津久井町	2人
		南巨摩郡増穂町	3人
		山梨県合計	36人
		(内準会員1人)	

愛甲郡愛川町	2人	藤沢市	10人
足柄上郡大井町	1人	三浦郡葉山町	1人
足柄上郡開成町	2人	三浦市	2人
足柄下郡湯河原町	1人	大和市	3人
厚木市	7人	横須賀市	10人
綾瀬市	1人	横浜市青葉区	5人
伊勢原市	3人	横浜市旭区	10人
小田原市	6人	横浜市泉区	6人
鎌倉市	9人	横浜市神奈川区	3人
川崎市麻生区	7人	横浜市金沢区	10人
川崎市川崎区	4人	横浜市港南区	5人
川崎市高津区	1人	横浜市港北区	10人
川崎市多摩区	2人	横浜市栄区	10人
川崎市中区	2人	横浜市瀬谷区	3人
川崎市宮前区	2人	横浜市都筑区	6人
相模原市	27人	横浜市鶴見区	6人
座間市	3人	横浜市戸塚区	9人
逗子市	3人	横浜市中区	1人
茅ヶ崎市	4人	横浜市西区	1人
津久井郡城山町	2人	横浜市保土ヶ谷区	7人
津久井郡津久井町	1人	横浜市緑区	7人
津久井郡藤野町	1人	横浜市南区	6人
秦野市	4人	神奈川県合計	229人
平塚市	3人	(内準会員5人)	

昭島市	1人	調布市	5人
あきる野市	4人	千代田区	4人
足立区	5人	豊島区	3人
荒川区	3人	中野区	6人
板橋区	4人	西多摩郡日の出町	1人
福城市	1人	西東京市	4人
江戸川区	7人	練馬区	13人
青梅市	3人	八王子市	19人
大田区	9人	羽村市	1人
葛飾区	3人	東久留米市	2人
北区	2人	東村山市	1人
国立市	1人	東大和市	1人
江東区	1人	日野市	11人
小金井市	5人	府中市	9人
国分寺市	4人	福生市	2人
小平市	5人	文京区	2人
狛江市	1人	町田市	17人
品川区	3人	三鷹市	6人
渋谷区	3人	港区	2人
新宿区	3人	武蔵野市	5人
杉並区	12人	武蔵村山市	2人
世田谷区	18人	目黒区	5人
立川市	4人	東京都合計	225人
多摩市	2人	(内準会員8人)	

## システム写真を募集します

太陽光発電所マップにみなさんのシステム写真を掲載します。掲載を希望される方は、写真にコメントを添えて事務局へお送りください。ご応募の際は、お名前をのほかに必ず会員番号をご連絡ください。



↑神奈川県小田原市の大津賢司さん(会員番号A03076714)のシステム

相談室からの報告

■ 地域相談員を任命しました

昨年10月1日より、3名の相談員でスタートした相談室活動も、12月の「全国太陽光発電所オーナー大集合イベント」での相談コーナー開設など着実に実績を積み上げてきました。一方、各地域のイベントにおいてもPV健康診断が活用されるとともに、相談活動が拡大しつつあります。

これらに対応するため、3月の理事会で、各地域の相談活動の推進にあたる「地域相談員」を置くことが承認され、新たに10人が就任しました。これに伴い、すでに活動している3名の相談員は「主任相談員」として、全地域を担当します。

相談員の方々はつぎの通りです。

●主任相談員 (2004年9月就任)		
氏名	担当地域	主な活動
本多一民	全地域	技術・対応委員
鈴木 昇	全地域	技術・対応委員
湯浅直樹	全地域	事業化検討委員
●地域相談員 (2005年3月就任)		
氏名	担当地域	主な活動
小西健司	茨城	技術・対応委員、渉外委員
石渡鏡一	栃木	調査委員、事業化検討委員
湯浅直樹	群馬	事業化検討委員
松田廣行	埼玉	普及広報委員
平岡稔夫	千葉	技術・対応委員、調査委員
川原山浩一	東京	調査委員
古川 元	東京	普及広報委員
横谷公雄	神奈川	調査委員
深沢 修	山梨	組織交流委員
森 純男	静岡	技術・対応委員

■ 各種規定、誓約書を制定しました

相談室活動は、会員個人の家に出入りするなど個人のプライバシーに触れる機会の多い活動です。また相談員はPV-Netを代表する立場でメーカー、設置業者などに対応する機会もあり、これらの行動でPV-Netが評価されることもありえます。

これらに対して、PV-Netとしての統一性、一貫性を確保し、信頼性高い相談室活動を展開するため、総務財政委員会の指導の下、「相談室運用規定」、「相談員選任基準」などの規定を制定しました。また、「システム不調調査表」などのチェックシートの整備を図るとともに、相談室独自の相談員研修会を開催し、「相談員として望まれる資質」や「相談対応方法」などについて細部に至るまで意思統一を図り、相談を依頼する会員に不安を与えないよう万全を期しております。なお、相談員の方々には、以下の誓約書も提出していただいています。

(技術・対応委員会副委員長 國井範彰)

誓約書

- 相談員として、相談依頼者宅へ出入りする機会等において知り得た一切の個人的情報の守秘義務を有し、活動外および解任後もこれを守ります。
- 相談事例は、太陽光発電所ネットワーク(以下PV-Net)の共有財産であるが、PV-Net会員への公開はあくまで相談依頼者の了解が原則である。相談依頼者から公開されるのが望ましいので、相談員は、この主旨を相談依頼者によく伝え、事例の公開に努めます。
- その他については、PV-Netのプライバシーポリシーに従い、上記の守秘義務および公開義務について、相談依頼者に伝えます。

太陽光発電所ネットワーク 代表理事 殿

私は、相談員就任に当り、以上の義務を果たすことを誓約致します。

年 月 日

住所 氏名 印

トラブル相談事例

最近の相談事例を報告します。類似の事例がありましたら事務局までお知らせください。

【相談① 業者からの売り込み：非会員、未設置者】

Q：築1年の家、真南向き切妻屋根、2階建て、陰なし。PV装置の売り込みがあり、検討中。業者からのセールストークで「設置して発電した電気を売った代金をローンの支払いに回せば、実質無料で取り付けられる」と言われているがどうか。

A：PV設置には理想的な条件です。元をとるのに20年程度かかるといわれていますが、有り得ないことではありません。まずシステムの大きさ、設置条件、費用の見積り、ローンの条件など事前に調べてよく検討してください。システムの大きさ、設置条件がわかれば、発電量は会員向けサービスのPV健康診断で推定できます。必要でしたら、連絡ください。

【相談② メンテナンスの勧誘：非会員、設置者】

Q：02年設置、4.3kW、オール電化住宅、いままで特に問題なし。設置業者は倒産したが、今年2月頃より倒産した業者から引き継いでメンテナンスを委託されているという会社から、「設置後3年近くなるので、メンテナンスしたほうがいい。メンテナンス後2年間は何があっても補償する。以後2年に1回メンテナンスするのがいい」としつこく電話勧誘される。

A：2年ごとのメンテナンスは聞いたことがない。心配ならメーカーのサービス部門へ直に問い合わせるのがよい。(会員の場合は取り次ぐこともします)。

(事務局)

太陽光発電がよくわかる  
とっておきの話

第4回 太陽エネルギーを利用する

太陽光発電博士、ドクター・ケロルッチがお届けする連載第4回のテーマは、「太陽エネルギー」です。太陽光発電について、いよいよ核心部に話が移ります。



ぶん：おたにけんじ え：やぎっち

ドクター・ケロルッチは、いつかはなくなってしまうエネルギー資源を、いずれ止まってしまいうりやうの玉に例えて説明しました。転がる玉が止まらないようにするにはどうしたらよいか? というのがテルミちゃんへの質問です。

「ペリヤードの玉と台をピカピカに磨いたらいんじゃないかしら」

「そうだね、表面がツルツルになると摩擦が少なくなる。だから、玉はずーっと長く転がり続けることになる」ケロルッチは続けます。「アイスホッケーというスポーツは、摩擦の少ない氷の上で競うから、人間もパックも動きがとて速くて、よりスリリングな競技になっていくだろう?」

「アイスホッケーをしたことはないけど、エアホッケーならお父さんとしたことがあるわ。とっても動きが速くて面白かった」

「エアホッケーはパックを空気で浮かせているから、摩擦がもつと少なくなっている。放っておいたらいつまでもパックがすべり続けるように感じるね。でも、ずっと見てごらん。いずれ止まってしまおうから」

摩擦が起きると熱(摩擦熱)が発生するため、運動のエネルギーが熱エネルギーに転換してしまいます。運動エネルギーはこうして徐々に失われて、ゼロになったところで玉が止まってしまうのです。摩擦のな

い世界でペリヤードをすれば玉はいつまでも転がり続けます。でも、摩擦がなければ玉を突いて転がすことすらできないでしょう。

「摩擦を小さくして転がる距離を長くするのはいいアイデアだったね。これはエネルギーロスが減らすということだから、省エネと同じだよ」

「では、止まらなくするにはどうしたらいいの?」

テルミちゃんの逆質問に、ケロルッチはケロッとすました顔で答えました。

「つまりそうになったら、手を出してまた転がせばいいんじゃないか」

「ええ。それじゃズルみたい。外から手を出さなくて」

「外から」手を出さず何が答えなんだよ」ケロルッチは「外から」に力を込めて言いました。「つまり、答えはこういうことだ」

ケロルッチの説明はこうでした。ペリヤード台は「閉じた空間」の一例であり、その中で利用可能なエネルギーは熱への転換で失われています。地球も「閉じた空間」と考えると、その中で利用可能なエネルギー資源は同様に失われてしまいます。でも、外から有効なエネルギーの供給があれば、閉じた空間の内側のものはいつまでも活動を続けることができるのです。

地球の場合、外から供給される有効なエネルギーとは太陽エネルギーです。人類は太陽から暖を得るだけでなく、電気を得る手段も見つけました。これが太陽光発電です。

「内側と外側というのがポイントだ。外から内側に入ってくるエネルギーが、内側で利用されるエネルギーより大きければ、内側ではずーっとエネルギーを利用し続けられることになる」

「太陽エネルギーってどれくらいあるの?」

「地球へ一時間に入ってくる太陽エネルギーは、人類が一年に消費するエネルギーの量とほとんど同じだよ。すごく大きいだろう。だから、太陽エネルギーをうまく利用すれば、人類はもつと活発に活動し続けることができるよ」

「つまり、石油や石炭などの内側のエネルギー資源だけに頼らずに、外から入ってくるエネルギー資源も有効に活用しなさい、ってことね」

「そう、人間たちが言うように『井の中の蛙』じゃないけないよ。もつとも、このことは広い世界があることを知らない人のことをわれわれカエルにたとえているのが気に入らないけど……」そう言いながら片目でウインクしてこう続けました。

「井の中の蛙大海を知らず、されど空の青さを知る、ってね!」

(つづく)

## 投稿お待ちしております！

会員の広場では、みなさんからの投稿を募集しています。1000字以内で、PVにまつわるエッセイ、コラムなど、思いのままに書き綴っていただいた文章を、封書、FAX、あるいはE-MAILで事務局会報係までお寄せください。

今回の号では、千葉地域交流会世話人の小関光二さんが、PV-Net会員の電力消費について思うところを書いています。また、茨城地域交流会代表の前川淳治さんからは、PVについての雑感が寄せられました。どちらも示唆に富む内容となっています。

### PV設置で思うこと

【千葉地域交流会世話人・小関光二】

平成16年12月18日（土）に催されたPV-Net大集合イベント会場で、芝浦工業大学の学生さんによるエネルギー消費実態に関するアンケート調査のため、用紙が配布されました。その資料として、PV-Net会員と一般世帯との電力消費量の比較が示されておりました（表1）。これによるとサンプル数に差があるものの、すべての世帯グループにおいて、PV-Net世帯のほうが電力消費量が多いことが示されておりました。

●表1 年平均月間電力消費量 (単位: kWh)

	単身世帯	二人世帯	三人世帯	四人世帯	五人世帯	六人以上
一般世帯	196	295	349	385	445	662
PV-Net会員	721 (※)	575	567	588	702	687

※サンプル数が2件のため特殊なケースと予測される。

私はこの結果にショックを感じました。その理由は、PV-Net会員は一般世帯の1.5~2.0倍の電力消費量であることと、平成14年のPV-Net設立準備会のアンケート調査結果で、PV設置の動機や組織化の目的は、環境問題の解決やPVの普及推進が最も多かったことを考えると何かギャップを感じるからです。

太陽光発電はクリーンエネルギーだから電力消費量が多少多くても気にしないでよとの意識が働いているのかもしれないね。

でも、仮に3kWのPV設置だと、月平均発電量は250kWh、一世帯当たりの平均電力消費量が300kWh（少々少ない気もするが、東電データ、従量電灯B、A一契約当たり）だとすると、1.5~2.0倍多いと450~600kWhとなり、PV発電で補充しているとはいえ、200~350kWhは、ダーティー電力を使用していることとなります。これは、一世帯電力消費量に匹敵する電力消費です。

経済的に得にもならないPVを設置したのは、環境問題

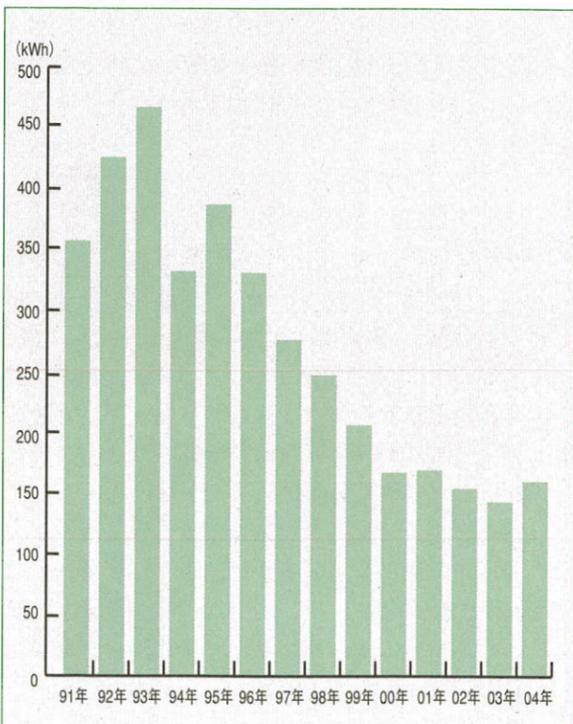
を通じて社会に働きかけることだと思います。

現代のようなモノがあふれる豊かな社会では、豊かさが增加するにつれて幸福感が低下すると言われていきます。日本はまさにこんな状況の中にあります。こんな中で幸福感を感じるには、美しい地球と健全な社会文化が広がるよう働きかけることではないでしょうか。

みなさん、気をゆるめることなく省エネに頑張りましょう。

かく申す私の電力消費量の推移は表2の通りです。現在の目標は月平均150kWh以下です。将来は100kWh以下を目指したいですね。

●表2 月平均電力消費の推移



### 独断と偏見のPV（太陽光発電）雑感

【茨城地域交流会副代表・前川淳治】

#### ■ エネルギーへの関心

クリーンな大気と水、そして必要にして十分なエネルギーは衣、食、住とともに一日たりとも欠かすことができない。人類は生きるために火というエネルギーを使い進化発展してきた。中世ではエネルギー確保のために、食料の確保と同じくらい苦労したと言われる。エネルギー源として石炭が使用され始めたために産業革命が可能になったとも言われる。

79年のアサー・ヘイリーの小説、『エネルギー』は、米国の浪費社会が孕む電力エネルギーの危機状況が背景になっている。現実には2000年夏に起こったカリフォルニアの大停電パニックは、エネルギー大企業エンロンの不正事件による倒産とともに、アメリカ社会のインフラの脆弱性を露呈した事件としていまも記憶に残る。そう言えば石油ショックの頃、日本でも堺屋太一の小説『油断！』がベストセラーになった。

膨大な人口を抱えた中国がいま、活発な経済活動を続けている。先進国が辿った大量生産、消費、廃棄という負の遺産を再び繰り返し、大気や水質などの公害汚染の深刻さがともに報じられている。そして世界のエネルギー源を求めた活発な外交が新たな国際問題となって注目されている。

21cを迎えた現在もエネルギー確保の重要性は益々高まり、国家、民族の争いの根源をなしている。

#### ■ たかがPV

無限の太陽エネルギーの利用は人類永遠の夢である。PVこそまさにこの夢を叶える理想の発電機と言ってよい。しかし一方で「PVなんて、一日わずか数百円程度の発電をする、大人の高価なおもちゃに過ぎない」の冷やかな見方もある。

確かに現在、商用電力に占めるPVなど自然エネルギーの割合は量的には微々たるもので、たかが知れている。化石資源の節約、地球温暖化防止などへの直接的な効果には残念ながら程遠い。なぜなら日常生活、経済活動に使われる電力エネルギーは科学技術の粋を極めた最高効率の大規模設備から発電されているので、コストと規模において速く及ばない（02年；発電設備；2億3000万kW、発電量；8400億kWh）。

#### ■ されどPV

しかしながらPVほどクリーンでランニングコストを要しないエネルギージェネレーターはない。騒音も発生せず、エネルギー、原料も消費せず、全く環境に負荷を与えることなく黙々と、電力というエネルギー価値を生ずる。フル稼働しても壊れる心配はない。元々が腐食性や老化性に無縁の無機質パネルを静置しているだけのシンプルな装置だから。地震、台風など物理的損傷さえ回避すれば、本質的には半永久的に機能を発揮するすばら

しい装置と言える。ただし寿命10年と言われるパワーコンディショナ（PC）の更新が唯一のアキレス腱である。

今年から京都議定書の実行、目標達成に国の威信を問われている。一方PVは普及拡大するほど、業界を活発にし、量産によるコストダウンを促して益々普及に拍車がかかる。そしてPVによる総電力が一定の規模に達すれば真夏の電力ピークカットに寄与できる。その結果、稼働率の低い予備のための発電所増設を回避させることができる。またPV設置はナイト10契約などを促して電力消費の平準化に寄与し、双方のメリットになる。

このように、PVは普及拡大すればするほど、業界、消費者、電力会社、また国にとってもすべて、良いことづくめである。

#### ■ 経済的メリット向上のためには

現在、PVの設置費用は車1台分に匹敵し、必ずしも安くはない。採算、メリットは最大の関心事である。車1台分、または他の家電製品と比べて効用はどうか。

採算の基準は発電性能と耐久性である。（発電性能の多少の違いは別にして）耐久性の最大ポイントはPCの寿命である。現在10年と言われているPCの寿命を5倍、10倍に伸ばすことができれば、PC設備の耐久性は50年、100年と伸びると考えられる。PCの耐久性アップの目標を最優先の開発課題として、現代の科学技術を持って取り組みれば、容易に到達可能であると信じる。

コストダウンと耐久性の飛躍的アップが可能になると、PVの採算性、メリットは大きく向上する。成功の暁には計り知れない効果が予想されることは言うまでもない。

#### ■ PV普及の意義

長期耐久性、価格低下により十分な採算性が認識されると、市場は一気にS字カーブの増加が期待される。日射量に応じて刻々と変化するPVの発電量を目の当たりにしていると、何人も太陽エネルギーの持つ神秘的な価値に思いを新たにすることに違いない。それはやがてエネルギー、化石資源のみならずあらゆる有限な地球上の資源の価値と重要性を一層認識させるに違いない。そしてさらに省エネ、省資源をベースにした21c型のライフスタイルの選択につながることを期待したい。

京都議定書の目標において民生部門の30%削減目標は困難と言われる。しかし国民の普段の地道な省エネ意識と継続的な実行こそが確実に大きな成果につながるのではないかと。その意味でPVの普及拡大は省エネ効果とともに地球の環境保護活動にとって、まさに人々の意識転換の契機を秘めているものと考えられる。

妄言多謝。

# 第3回 総会開催のお知らせ

太陽光発電所ネットワークは2003年5月に発足してから丸2年が経ちました。特に2004年度は、各地域交流会の活発な活動、愛知万博出展など、大きく飛躍した1年でした。

3年目を迎える太陽光発電所ネットワークは、NPO法人化・グリーン電力証書取引事業（PV-Green事業）始動など、新たな活動を迎えます。新年度の活動方針を決定する第3回総会のご案内です。多くのお客さまの出席をお待ちしています。

## ■ 主なプログラム（予定・順不同）

### 1. 活動報告

2004年度の太陽光発電所ネットワークは大きな飛躍を遂げました。PV健康診断の実施、相談室の開設、大集合イベント開催、愛知万博参加はもちろん、各地域交流会・各委員会が様々な活動に取り組みました。

盛りだくさんだった2004年度の活動について、報告します。

### 2. 活動方針

会報で予告してきたグリーン電力証書取引事業に本格的に取り組みます。また、過去2年間の活動を振り返り、組織図を再編します。NPO法人格取得も予定しています。

これまでの2年間とは異なる、新しい体制で臨む2005年度の活動計画案を提示します。

### 3. 規約

2003年度より、PV-Netにふさわしい規約とはどのようなものなのかを、みなさまの意見を元に考察してきました。今年度はNPO法人格取得を予定しています。そのために規約の呼称を「定款」に変え、



第2回総会での会場の様子

これまでの議論の集大成となる内容の改正を行います。

### 4. 予算

2004年度の決算報告と2005年度の予算案を提案します。

### 5. 人事

発足時の理事の方々が任期満了となります。これから2年間、PV-Netの運営に携わる新しい理事を決定します。

### 6. 講演

太陽光発電にまつわる講演を予定しています。



「世界の太陽光発電」について講演する（株）資源総合システム代表取締役一木修氏。第2回総会より



2004年度、第2回総会での集合写真

### 7. 懇親会

各地の太陽光発電所長との輪を広げ、楽しいひとときを過ごしましょう。ふるってご参加ください。

詳しい内容は「太陽光発電所ネットワーク2005年度総会議案書」をご覧ください。これらの議案は総会にて会員のみなさんの決議を得て、2005年度の太陽光発電所ネットワークの活動方針として承認されます。是非第3回総会へお越しください。



第2回総会での懇親会の様子

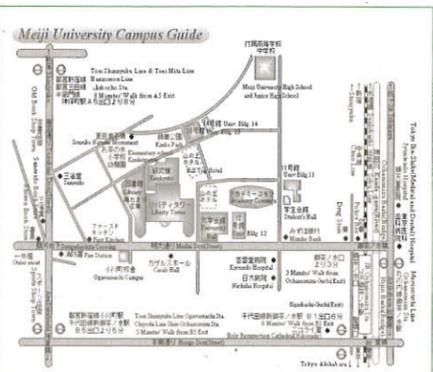
## 概要

開催日時：6月25日（土） 13:00～17:00（予定）  
開催場所：明治大学リパティタワー3階 1032教室  
（東京都千代田区神田駿河台1-1）

### アクセス：

- ★都営新宿線／都営三田線／東京メトロ半蔵門線  
神保町駅A5出口より約8分
- ★都営新宿線小川町駅  
東京メトロ千代田線  
新御茶ノ水駅B5出口より約5分
- ★東京メトロ千代田線  
新御茶ノ水駅B1出口より約6分
- ★JR／東京メトロ丸の内線  
お茶の水駅お茶の水口より約3分

※懇親会は別途ご案内します。



## 地域の動き

### 茨城地域

～太陽光パネルから人生問題（？）まで、幅広い活動を展開中～

新しい活動方針を決めるにあたり、懇親を深める目的も兼ね、2月末に一泊で世話人会を開催しました。泊まりがけの議論をするのは初めての事です。

北茨城の会員、小林さんの計らいで鯨鯨（あんこう）鍋付きの民宿で開催しました。事務局からも手塚さん、1年ぶりの都筑事務局長が参加され、夜遅くまで膝を交えていろんな話ができました。いつもは貸し会議室のため、時間制限の中での話し合いでしたが、今回はお酒が少し入ったこともあり、いい世話人会ができたと思っています。

そんな効果もあり、4月の世話人会では次回のフォーラムの準備がすこぶる順調に進んでいます。積極的に案内文を作成してくれる人、県庁まで出かけて県の後援を取り付けたり、県の広報とのコンタクトをしてくれたりする人など、みんなで活動しています。

今度のフォーラムは原子力研究所の関連施設で行います。自然エネルギーと原子力エネルギー。避けては通れない日本のエネルギー問題を真っ向から見つめるよい機会になりそうです。

そんなわけで茨城では太陽光パネルだけではなく人生問題をも含めた幅広い活動をしています。

（茨城地域交流会世話人 堀江 實）



鯨鯨鍋を囲んでの茨城地域世話人会

### 栃木地域

～調査事業の完成、そして自治体との協働・連携～

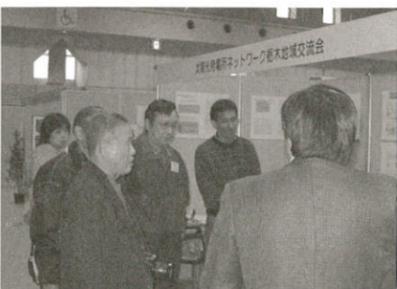
栃木県の平成16年度消費者活動いきいき促進事業に係わる消費生活問題調査研究事業として採用された「環境にやさしい持続可能な消費社会に向けて～個人太陽光発電システム購入および運用ガイドブックの発行」という一大調査事業も終焉を迎え、3月8日の成果報告会では大変好評を得ました。栃木県との信頼関係も深まり、今後の活動の支えにもなるでしょう。納富さんと奥様（栃木事務局）、本当にご苦労さまでした。



3月8日に行われた成果報告会の様子

このような中でも、2月には「エコテックとちの環」で出展し、PV-Net栃木の活動状況やPV-Greenの宣伝などを行いました。日々の活動が評価されたのでしょうか、出展場所は入り口の真正面でした。多くの方が立ち止まり、質問・相談などに対応しましたが、設置を考えている方がかなり多いものの、不安を抱えているようで、ガイドブックがこれから活躍するでしょう。

これらの活動の成果として、県との意見交換会も実現し、各自治体との協働・連携を進める予定です。



「エコテックとちの環」

活動疲れのためか、3～4月は一息（といっても東京での委員会やプロジェクトの仕事も多い）といった感じでしたが、4月には懸案事項の世話人・会員拡大に向けて県北で世話人会を開催しました。その結果、一気に3人の新世話人が誕生し、以下の企画が決定しました。なお、県北の多くの自治体に共催依頼を予定しています。

### 県北ミニフォーラム

「那須野が原に太陽を…」

- ・6月4日（土）  
14:30～16:00
- ・那須野が原ハーモニーホール
- ・内容（予定）：  
①PV健康診断、  
②PV-Green証書の紹介と募集  
③県北自治体の講演と意見交換  
④PV設置ガイドブックの配布など。

以上のように栃木では種々の活動を行っています。やはり重要なのは会員増強です。今後は県南方面でのフォーラムも企画し、県全体での大きな飛躍を考えています。県内外の会員のさらなる参加をお待ちしています。

（栃木地域交流会世話人 鈴木 昇）

### 群馬地域

～お話会の開催を活動の中心に～

3月25日、5カ月ぶりに世話人会が開催され、今年度の振り返りと来年度の活動計画を話し合いました。

振り返りとしては恒常的な世話人不足のため、他地域のような活動が難しかったことなどが挙げられました。先月の会報でもお伝えしましたが、来年度の活動はあまり気を張らず、群馬県内の会員のみなさんが気軽に参加できるようにお話を開くことを活動の中心に据えていきます。情報交換、悩み相談などの場として活用してもらおうと考えています。7月まで

に1回は開催する予定です。

また、動き始めたPV-Greenですが、遠い地域の会員の方々へは情報が伝わらず、なかなか中身を理解していただく機会がないのが現状です。群馬県内に住む会員と太陽光発電設置者向けに、PV-Green説明会なども開催する予定です。

(事務局)

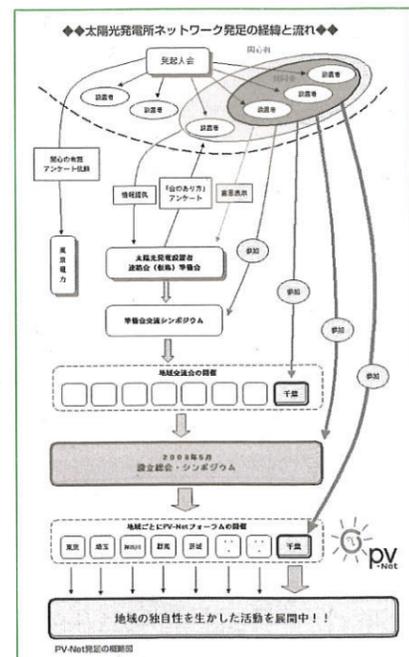
千葉地域

～2005年度の活動計画案決まる～

2005年度の活動計画案を決めました。地域フォーラムは自治体と連携して開催することが目標です。見学会も予定していますが、なかなか良い場所が見つからないでいます。見学先候補となるような施設に関する耳寄りな情報や行ってみたい施設がありましたら是非お知らせください。

イベントとしては、毎年夏、幕張メッセで行われている「エコメッセちば」へ今年は出展したいと考えています。PV健康診断教室の開催も2回予定しています。

ということで、早速5月22日、PV健康診断教室を開催しました。インターネットを利用してPVカル



千葉地域交流会が作成した広報資料「太陽光ネットワーク発足の経緯と流れ」

テを作成し、システムの診断を行うほか、パソコン全般についても学習できるよう準備を進めました。40%程度にとどまっている千葉地域のPVカルテ登録率を少しでも上げるため、今回からPV健康診断教室への参加申し込み以外にPVカルテの相談についても受け付けることにしました。相談があった場合は、相談員か最寄りの世話人が個別にPVカルテ作成までをお手伝いしていきたくと考えています。

また、自治体や他団体に地域交流会を説明するための補助資料を作成してみました。

(千葉地域交流会代表 宮下朝光)

埼玉地域

～来年度の取り組みについて～

年度末を迎え、当地域交流会は来期の取り組みを、①地方・教育行政およびNPO団体とのコラボレーション推進、②グリーン電力証書事業の展開、③会員主体の地域活動の充実など、を重点課題として、多彩な特色ある地域行政との協働活動を積極的に展開し、昨年度達成できなかった埼玉県内を都市部・田園都市部・山間部などに区分し、会員と密着した近隣グループ活動を展開したいと考えています。

また、グリーン電力証書事業の展開次第では著しい会員の増大も期待できると予想されますので、それに対応した地域活動のあり方が問われることとなり、昨年度までの地域活動とは異なる方向の活動を構築する必要が出てくると予想しています。それに伴い、世話人会の充実として埼玉県内の近隣グループごとの世話人も必要になると考えています。埼玉県内会員のみなさまのお力添えをお願いします。

(埼玉地域交流会代表 樽谷 勇)

東京地域

～近隣グループが続々と誕生～

東京交流会では、日野に続き、国分寺・小平・国立・立川・東村山の会員に呼びかけ4月17日(日)午後、同じく武蔵野市・三鷹市・小金井市の会員に呼びかけ4月24日(日)午後、各々第1回の近隣グループを開催しました。以下に、各近隣グループに参加した世話人からの報告をご紹介します。今後他の地域でも開催していく予定なので是非ご参加ください!

(東京地域交流会代表 高柳良大)

<国分寺・小平・国立・立川・東村山地域>

近くだからこそ参加できたという参加者(世話人含め参加者6名)は、パソコンでの入力実演に興味津々。「ファックスでの発電量提出にもすぐに診断結果を返して欲しい」、「もっと気軽に集まる機会を」などの意見が出され、近隣グループの意義を再確認しました。

(東京地域交流会世話人 都甲公子)

<武蔵野市・三鷹市・小金井市>

吉祥寺駅に近い会場に発電所長さん(世話人を含め参加者10名)が集合して、これからはほぼ3か月ごとに太陽光発電に関する様々な話題を肴にして気軽にご近所付き合いをすることなどを話し合いました。次回は調布市の所長さんにも呼びかけることやグループのニックネームも提案されました。

持ち寄ったカルテやデータから話に花が咲きましたが、将来の太



東京の近隣グループ(武蔵野・三鷹・小金井)

陽光発電のイメージや会の活動についての意見など、幅広い話題であっという間に予定の時間が過ぎました。

(東京地域交流会世話人 河田鐵雄)

神奈川地域

～見学会の開催と万博出展準備～

「子ども教育に重点」という目的で、3月の春休み期間中に第2回PV-Net神奈川の見学会を開催しました。見学先は、全国地球温暖化防止活動推進センター「ストップおんだん館」と東京電力「電力館」で、大人も子どもたちも気候変動や電気の発電・送電のしくみについて目と体で学習することができました。



第2回見学会の様子

4月3日(日)には、近隣グループ「PVさがみはら」が相模原市「市民桜まつり」に参加し、愛知万博展示物の一部をテスト出展しました。これは、本番前の練習と展示物の人気を占うためでしたが、細かな不備を発見でき、また「子どもたちの人気を得ること間違いなし」という確かな手応えもつかむことができました。

実は、愛知万博の準備は神奈川の会員が中心となって企画し、製



ソーラータウン、ほぼ完成! やった!!

作が進められました。3種類の主な出展物は、すべて神奈川の会員による発案で、一部の物品は神奈川会員の勤務先や企業から寄付や貸与を受け、そして本体、小物、ソフト、展示台兼運搬箱のほとんどが神奈川の会員宅で製作されました。こうして汗の結晶を送り出したいまはただ、PV-Netの万博出展の成功を祈るばかりです。

(神奈川地域交流会代表 野村安子)

山梨地域

～手づくり発電所建設の可能性をアピール～

山梨地域交流会では、12月に世話人会による手づくり太陽光発電所事業を行って以来、世話人会メンバーが独自の発電所増設工事を相次いで行いました。手づくりによる安価な発電所建設の可能性を広く社会にアピールし、設置費用ダウンによる太陽光発電のさらなる普及につなげていきたいと思えます。

3月12日には第2回フォーラム山梨を開催しました。都筑事務局長を講師にPV-Green説明会を聞き、出席者から多くの質問を受けました。また、世話人会メンバーの発電所紹介では、手づくりのメリットなどが説明されました。今後はPVカルテ・発電量入力率アップを目標に、県内を小地域に分けて説明会を実施していく予定です。

また、7月には長野県の太陽光パネル工場見学と長野地域との交流を予定しています。他県会員の方々にも参加を呼びかけていきたいと思えます。

(山梨地域交流会代表 芦澤泰徳)



第2回PV-Netフォーラム山梨の様子

静岡地域

～2004年度の活動を振り返って～

2004年度の静岡地域交流会は様々な活動を実施しました。静岡県全域でのイベントやフォーラムへの参加、PV-Netフォーラムの開催、愛知県を含む中部電力管轄まで活動を展開し、多くのイベントを経験したことは2004年度の静岡地域交流会の大きな財産です。

また、自治体に勤務する会員が世話人になったことで、自治体とのつながりができました。詳しくは特集「自治体との連携に向けて」の静岡の記事(P.7)をご覧ください。静岡地域交流会は、今後も積極的に自治体主催イベントなどに参加・協力して良好な関係を築きたいと考えています。

会員数は2003年度の54名から、2004年度は87名+賛助会員1企業に増えました。会員を増やすだけでなく、PVカルテの充実も課題です。3月11日現在、83名中健康度「◎(良好)」が34名で41%。未更新16名に会員継続の勧めと同時にカルテ、発電量の登録をお願いしています。

一方で、近隣グループは世話人を中心にした区分けはできませんでしたが、グループごとの集まりは実現できませんでした。また、委員会是一部に欠席が多いので早急に新世話人を補充する予定です。

静岡地域交流会にとって2004年度は、非常に収穫の多い1年だったと思えます。

(静岡地域交流会代表 山下正道)



PV-Netフォーラム静岡の様子

2004年度第6回理事会

- 日時：3月19日(土) 14時～17時
- 場所：水道橋こびら会館
- 参加者：理事17名(代理1名)、監事1名、評議員1名、オブザーバー1名、事務局4名

愛知万博でパネル展示のほか、3種の参加型ワークショップを実施予定であることが報告されました。また、PV-Greenについて、リスク管理と組織案の説明と意見交換を行いました。事務局長より中長期計画の素案が提示され、意見交換を行いました。

事業化検討委員会

グリーン電力証書化事業(PV-Green事業)の検討は終了し、PV-Greenプロジェクトが立ち上がりました。事業化検討委員会としては、ひとつの役目を果たせたと自負しております。

前回の委員会でワーキンググループ(WG)の再編を行い、4つの事業化ワーキングを推進しています。この中で最も活発な活動を展開しているのが市民発電事業WGです。山梨県内の農地発電所見学会開催を機に、具体的な事業化案出しに向けた活動が展開され、委員会に事業化素案が提示されました。この活動は山梨の世話人大友哲さんの提案で、地域密着型の事業化展開につながる可能性が高く、PV-Greenとは異なる切り口の案件として議論されていきます。

相談事業WGは、すでに相談室が設置されている技術・対応委員会との協働が提案されました。まずは5月に合同委員会を実施し、今後の事業化展開について意見交換したあと、WGメンバーは技術・対応委員会にオブザーバ参加し、事業化案件につながる内容を拾い上げて整理しながら進めていく可能

性が高いと思われます。

メンテナンス事業と保険事業ワーキングは、進捗が思わしくない状況です。現状の実態調査も含めた展開が必要と考えていますが、専門家を交えた意見交換などの必要性も議論されているので、こちらは次回委員会までに具体的な方向性が見えてくると思います。

いずれも、年度の後半から立ち上がっているワーキング活動のため、年度内に成果を出すことは難しい状況にあります。運営体制の見直しを含めて来年度につながる活動を継続していきたいと考えています。

(委員長 納富信也)

調査委員会

今年度最後の委員会(4月16日)では、まとめと来年度に向けた目標を話し合いました。WGはこれから最も重要な時期になります。気を引き締めてまいります。

WG-I(PV基礎資料室づくり)：土台の索引をつくり終え、次期は図書室の本棚を整理、充実させます。

WG-II(PV流通構造調査)：購入プロセス調査を中心とした報告書づくりが最終段階です。栃木地域交流会と県との協働調査事業の報告書も加わり、総会には冊子になります。

WG-III(委託・助成の開拓と社会環境調査)：助成応募も試みましたが準備不足でした。応募の手引きづくりが課題です。今年度はもう終盤ですが、関東9都県の市町村(合併統合後約520自治体)対象に調査をしております。会員の多くが受けておられる(財)新エネルギー事業団(NEF)の太陽光発電設備導入促進事業補助制度は平成17年度で終了します。国からの後押しがないことに対して、今後の設置希望者や太陽光発電所長の多くはPV普及を制度で応援して

欲しいと思っています。

04年度、関東9都県では72の自治体が補助をしていました(会報6号「PVに関するお役立ち情報」参照)。選考基準の条件は様々ですが、市町村のPVに対する関心度は増しています。渉外・調査委員会共同で9都県の自治体に対してNEF助成最終年度にあたり助成制度の今後と固定資産税の基準について問い合わせを行いました。各地域自治体の環境・エネルギーに対する政策を詳しく知り、PV-Netの活動をお知らせし、地域の政策やイベント協働参画の糸口となれば素晴らしいと思います。調査の結果は来期の報告課題です。

(委員長 関沢ひろみ)

組織交流委員会

04年度の活動も大詰めを迎えております。当委員会は本年度の最大課題である前年比倍増の会員獲得に向けて関東圏内外の会員拡大を積極的に展開してきましたが、残念ながら所期の成果を達成できないまま来年度に期待する結果となりそうです。

また、地方組織の充実と個性豊かな地域活動を推進するため、地方事務局の設置の下調べなどの調査を地道に進めてきました。来期はPV-Greenの本格化などを受け、具体化する必要があります。他方、各地域の自治体や各種団体とのコラボレーションによる活動を推進するために、地域のみなさんと積極的に会話し、活動が実り多くなるよう委員会活動を積極的に展開したいと考えています。

残り少なくなった本年度の目標達成を図るために会員のみなさまとの絆を深め、笑顔で新年度を迎えたいと思いますので、今後ともご協力ご指導よろしく願い申し上げます。

(委員長 樽谷 勇)

渉外委員会

本年度活動の中で「メーカ交流会」について報告します。この活動は前年度の機器情報委員会が行っていた交流会を踏襲したのですが、機器情報のみでなくPV普及全般に役立てるための交流の場へ発展させるように、各委員会のご協力をいただいて年度内に3回の開催ができました。

1回目はお互いの目的意識のズレがあり、若干の堅苦しさを感じられましたが、回を重ねるにつれて交流会の目的が双方にとって有意義であることが理解され、活発な意見交換の場になりました。今期の特徴としてはPV機器メーカだけでなく、ハウスメーカも交流会に参加されたことです。

特に第3回交流会(4月22日)では、中古PV装置再利用について有意義な意見交換ができました。また相談室を通じて得られたトラブル情報の提供は、流通経路が複雑な故に把握しがたい市場の末端情報として真摯に受け止めていただいております。PV機器の性能と品質の向上に役立つものと思われます。

なお、交流会の議事内容や結果についてはホームページの議事録をご覧ください。来期はPV-Greenの事業本格化に向け、お互いの立場で協力できる智恵を創り出せるような場に発展させる必要があると考えます。(副委員長 宮田卓英)

普及広報委員会

04年度はパソコン教室テキスト、リーフレット作成(簡易版・リニューアル)、エコプロダクツ出展、ロゴマーク作成など目に見える形の活動が多かったと思います。

新リーフレット：PV-Netを紹介する新しいリーフレットができあがりました。このリーフレットは、愛知万博「地球市民村」ブースで配布しています。また、会員のみ

なさまには会報に同封しています。

ホームページ改善：ホームページWGを立ち上げ、ホームページを使いやすく改善するための取り組みを始めています。ご意見のある方は、事務局まで連絡ください。

ロゴマーク：ロゴマークの使用規定を作成しました。キャッチフレーズとあわせて各地域で積極的に活用してください。詳しくは本誌P.3をご覧ください。

会報原稿募集：つぎのテーマで原稿を常時募集します。字数は1000字前後でお願いします(写真は任意)。掲載の場合は「PV-Net News」掲載号を2部差し上げます。

- ①「わが家のPV」—設置してからこれまでを振り返ってどうだったか、設置に至るまでの苦労話など。
- ②「わたしがPVを始めたわけ」—どうしてこんなことを始めたのか、その動機やきっかけについて。

来年度は会報の発行、イベント出展のほか、会員証発行(希望者のみ)、講座開催を行う予定です。

(委員長 小林 光)

技術・対応委員会

12月の「全国太陽光発電所オーナー大集合イベント」で相談コーナーを開設し、大きな成果が出せたことを受けて各地域のイベントでも相談コーナーを開設しようとする動きも出ております。これに対応し、地域における相談室活動をよりきめ細かく充実したものとするため、3月19日の理事会で承認を得て、新たに「地域相談員」(10名)を任命しました。詳細は本誌、別稿(P.14「トラブル改善の取り組み」)で紹介しております。

一方、今期初めより機器WGを中心に進めていましたパワーコンディショナに関する検討も、9月のメーカ交流会で議論するとともに、質問票を提出して回答を求めていました。今回、ある程度回答が出揃ったことを受けて、PV-Net

としての考え方もまとめる必要性から、地域世話人さん、技術・対応委員会メンバーを対象に緊急アンケートを実施しました。メーカの考えとPV-Net会員の受け止め方が対比できて、なかなか興味ある結果となっています。4月22日のメーカ交流会に提出しましたが、会員のみなさんにも紹介する機会があればと考えます。

来年度に向け、本委員会の活動が地域活動の支えになれるよう、PV健康診断に続いて相談室活動が会員サービスの目玉となり、会員勧誘の有効なツールとなるよう育てていくつもりです。

(副委員長 國井範彰)

総務財政委員会

新しい規約改正案「定款案」を、ホームページの「会員のページ」に掲載し、3月末～4月頭にご意見を募集していました。会報6号にも「規約改正はわかり」を同封して意見募集をしていましたが、特にご意見はいただきませんでした。定款案について総会で承認が得られれば、11月頃にNPO法人化が認可される予定です。

また、当委員会としての04年度の活動の振り返りと05年度の活動の目標づくりを行いました。

04年度に実現した大きなものは、各地域の会計の体制がほぼ固まり、1年間運営してきたことでしょう。また、会の運営のよりどころとなる規約を軸にして、会費規定やプライバシーポリシー、相談室運用の規定など、重要な細則をつくってきました。また、来年度の活動予算についても委員会やWGで話し合ってきました。

05年度はPV-Netにとってさらに大きな飛躍の年となります。NPO法人化、PV-Green活動の推進、全国への活動展開……。これからの「地道に」会の基盤を支える活動を続けます。(事務局)

新しいリーフレットができあがりました!

太陽光発電所ネットワークを紹介する新しいリーフレットができあがりました。新しく決まったロゴマークとキャッチコピーを活用した、シンプルながらもわかりやすい内容にまとまっています。ご近所の方やお友だちに配るなどと活用してください。



会員更新のお願い

5~7月に入会したみなさま、会費更新の季節です! 太陽光発電所ネットワークの活動は3年目に突入し、さらなる飛躍のためにみなさんの会費が頼りです!

多くの方が指定口座への振込み、自動振替・払込の手続きを行っています。まだ会員更新されていない方は、下記指定口座へ年会費3,000円をお振込みください。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○ 郵便振替: 00190-7-758332

名義: 太陽光発電所ネットワーク

○ 銀行振込: 東京三菱銀行 神保町支店 普通: 2201524

名義: 太陽光発電所ネットワーク 事務局長 都筑建

PV-Netではご入会の時期により会員の更新時期を4期に分けています。会費の有効期限は、PV-Netからみなさまへ発送する封筒の宛名シールに記載してありますので、ご確認ください。会員資格の更新時期と会費有効期限は、右の表をご覧ください。

●会費区分、期限と自動振替・払込の申込締切について

区分	第1期	第2期	第3期	第4期
入会期	5/1~7/31	8/1~10/31	11/1~1/31	2/1~4/30
会費納入期限	5/31	8/31	11/30	2/28 (うるう年は2/29)
申込締切	4/20	7/20	10/20	1/20



会費の有効期限は宛名シールでご確認いただけます

ご寄付ありがとうございます

東京都文京区の橋本初江さん、東京都豊島区の三代川正秀さんからご寄付をいただきました。どうもありがとうございます!

ペンギンのはばたき

- ◆ 一生涯命夜も寝ないでPV-Netの基礎づくりに励んできた若き事務局員へのむくいが貰下げとは……。いろんな方策があるのにじくじたる思いだ。(k)
- ◆ 新年度がスタート! PV-Greenもスタート! PV-Netのさらなるはばたきにご期待を!(て)
- ◆ ドイツの自然エネルギー政策提言をする団体の方のお話をうかがって、世界は動いている! と

- ◆ 万博情報! シルクロード館のスマークターキーは絶品でした。オーストラリア館は夜8:30~アルコール類が半額になる!(い)
- ◆ 自宅にPVを設置しておよそ9カ月。日々の発電量やPV健康診断に一喜一憂です。以前よりも晴れない日がうらめしくなりました。(す)

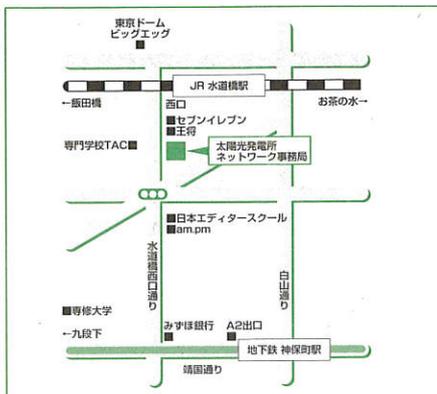
Editor's Notes

太陽光発電所ネットワーク (略称: PV-Net)

〒101-0061 千代田区三崎町2-15-5 三崎町SSビル6階

〈交通のご案内〉

- ① JR水道橋駅西口から徒歩2分
  - ② 東京メトロ・都営地下鉄 神保町駅A2出口から徒歩10分
- TEL 03-3221-3370  
FAX 03-3221-3380  
URL: www.greenenergy.jp  
E-mail: info@greenenergy.jp



<2005年2月>

- 5日 埼玉地域交流会世話人会
- 6日 細則WG (総務財政委員会)
- 9日 愛知万博プロジェクト
- 10日 PV-Net英語教室、静岡地域交流会世話人会
- 11日 「エコテックとちの環2005」出展 (~12日、栃木地域交流会)
- 12日 千葉地域交流会世話人会
- 15日 神奈川地域交流会 金沢近隣グループ
- 16日 財務WG (総務財政委員会)、山梨地域交流会世話人会
- 17日 PV-Net英語教室
- 18日 神奈川地域交流会世話人会
- 18日 PV-Net英語教室
- メンテナンス事業検討WG (事業化検討委員会)
- PV-Greenプロジェクト、拡大委員長会議
- 19日 規約WG (総務財政委員会)、第5回調査委員会
- 20日 太陽光発電見学ツアー (主催: 日野・地域エネルギー協議会、協力: 日野近隣グループ)
- 愛知万博「地球市民村」ユニット「光と水のエネルギー広場」現地見学および実行委員会
- 栃木地域交流会世話人会
- 22日 東京地域交流会世話人会
- 24日 PV-Net英語教室、三役会議
- 25日 ソーラータウンWG (愛知万博プロジェクト)
- 26日 「第2回山梨エネルギーまつり」出展 (山梨地域交流会)
- 「第11回環境を考える掛川市民の集い」出展 (静岡地域交流会)
- 資料室づくりWG (調査委員会)
- 27日 茨城地域交流会世話人会
- 農地発電特区検討WG (事業化検討委員会)

<3月>

- 1日 普及広報委員会打合せ
- 2日 組織交流委員会
- 3日 規約WG
- 4日 臨時総務財政委員会
- 5日 埼玉地域交流会世話人会
- 6日 細則WG
- 7日 臨時理事会
- 8日 「栃木県消費生活問題調査研究発表会」にて研究発表 (栃木地域交流会)。
- 愛知万博実行委員会
- 9日 技術・対応委員会
- 10日 第5回渉外委員会
- 11日 普及広報委員会、財務WG
- 12日 栃木地域交流会世話人会、ソーラータウンWG
- PV-Green (自家消費分グリーン電力証書化) 説明会 (山梨地域交流会)
- 千葉地域交流会世話人会
- 13日 PV-Netフォーラム埼玉
- 14日 愛知万博プロジェクト
- 15日 第6回総務財政委員会
- 16日 PV-Greenプロジェクト会議
- 17日 第6回事業化検討委員会
- 18日 PV-Greenプロジェクト会議
- 19日 拡大委員長会議、理事会
- 20日 愛知万博「地球市民村」ユニット「光と水のエネルギー広場」実行委員会 in 名古屋
- 神奈川地域交流会世話人会
- 「しずおか新エネルギー推進協議会」PV-Netがバナーとして登壇
- 23日 PV-Net News第7号編集会議
- 東京地域交流会世話人会
- 24日 ホームページWG (普及広報委員会)
- 25日 群馬地域交流会世話人会
- 26日 茨城地域交流会世話人会
- 27日 「フォーラム川越」(主催: 川越市、共催: 埼玉地域交流会) ソーラータウンWG、愛知万博プロジェクト
- 愛知万博「地球市民村」ボランティア事前説明・講習会
- PV-Net神奈川見学会

<4月>

- 2日 PV流通構造調査WG (調査委員会)
- 機器WG (技術・対応委員会)
- 3日 「第32回相模原市民桜まつり」出展 (神奈川地域交流会相模原近隣グループ)
- 6日 PV-Greenプロジェクト会議
- 7日 規約WG、総務財政委員会
- 9日 第7回事業化検討委員会、埼玉地域交流会世話人会、千葉地域交流会世話人会
- 愛知万博「地球市民村」ユニット「光と水のエネルギー広場」実行委員会 in 名古屋
- 細則WG
- 12日 万博パネルづくり下準備
- 14日 メーカ交流会事前打合せ、静岡地域交流会世話人会
- 16日 PV流通構造調査WG、第6回調査委員会
- 17日 拡大委員長会議
- 東京地域交流会国分寺 (小平・東村山・国立・立川) 近隣グループ
- 18日 PV-Greenプロジェクト
- 19日 山梨地域交流会世話人会
- 20日 東京地域交流会世話人会
- 21日 神奈川地域交流会世話人会
- 22日 第3回メーカ交流会
- 23日 茨城地域交流会、組織交流委員会
- 栃木地域交流会世話人会
- 24日 愛知万博「組み立てて予行演習 in 名古屋
- 東京地域交流会 武蔵野・三鷹・小金井近隣グループ
- 愛知万博「地球市民村」ユニット「光と水のエネルギー広場」パネル貼付作業
- 28日 PV流通構造調査WG